

# 未来へのまなざし

大和市学校教育基本計画



*amato*

平成18年3月  
大和市教育委員会

## 大和市教育目標

平成元年4月1日制定

わたくしたち大和市民は、文化の香り高い、活力ある大和市づくりを目指している。そのためには、「人間尊重の精神」を基盤としなければならない。

その基盤の上に、自分をしっかりと持ち、他の人々と連帯できる創造性豊かな人間として自己を磨き伸ばしていくことが求められる。

- 心身ともに健康な人
- 自立心を持つ人
- 学び続ける意欲を持つ人
- 思いやりの心を持つ人
- 自然を大切にする人
- 愛情と信頼に結ばれた家庭づくりをする人
- 近隣の人たちと共に生きる人
- 豊かな文化をはぐくむ人
- 国際社会の一員として行動できる人

## 明るくたくましい青少年が育つ都市宣言

昭和57年4月1日制定

大和市のあすをにない、友愛にみちた住みよい社会を築くのは青少年である。

青少年が自己の行動に自覚と責任をもち、心身ともに明るくたくましく成長することは、すべての市民の願いである。

この願いを実現するため、青少年自らの努力を期待するとともに、家庭、学校をはじめ地域社会が一体となり、市民の総力をあげて青少年育成の施策を推進することを決意し、ここに大和市を「明るくたくましい青少年が育つ都市」とすることを宣言する。

# 目 次

<b>大和市学校教育基本計画策定にあたって</b>	<b>2</b>
1. 策定の背景と趣旨	2
2. 構成	2
3. 策定の経緯	3
<b>大和市の教育課題</b>	<b>4</b>
1. 子どもを取り巻く環境	4
2. 本市の現況と教育課題	5
<b>基本構想</b>	<b>平成18年度から平成29年度までの12年間 10</b>
1. 基本理念 「自ら成長する力」をはぐくむ学校教育	10
2. 三つの視点	11
(1) 子どもを中心に据えた学校教育	11
(2) 家庭と共につくる学校教育	12
(3) 地域社会と共につくる学校教育	12
<b>基本計画</b>	<b>平成18年度から平成23年度までの6年間 13</b>
1. 基本目標	13
2. 基本目標と施策の方向	14
基本目標1 夢に向かって輝く子ども	14
基本目標2 確かな学力を身につけ自ら学ぶ子ども	15
基本目標3 人々とふれあって健やかに育つ子ども	16
基本目標4 創意と魅力に満ちた学校	17
基本目標5 豊かな人間性と高い専門性をもつ教職員	18
基本目標6 愛情と信頼に結ばれた家庭	19
基本目標7 温かいつながりをはぐくむ地域社会	20
<b>実施計画</b>	<b>平成18年度から平成20年度までの3年間 21</b>
1. 施策の体系と重点施策	21
2. 全体構想図	28
<b>&lt; 資料 &gt;</b>	
・大和の教育に関するアンケート集計結果	
・教育フォーラム	
・大和市学校教育基本計画策定委員会設置要綱	
・大和市学校教育基本計画策定委員名簿	

---

# 大和市学校教育基本計画策定にあたって

---

## 1. 策定の背景と趣旨

私たちは、今、グローバル化や情報化の急速な進展、地球規模での深刻な環境問題、価値観の多様化等急激な変化のなかにいます。

加速する社会の変化に対応し、わが国は構造の変換を図るため、さまざまな改革を進めています。改革の重要な柱である規制緩和と地方分権が進むなか、本市においてはいち早くこの流れをとらえ、平成12年、全国で初めて「特例市」の指定を受け、自立の一步を踏み出しました。平成16年には自治体の憲法といわれる「自治基本条例」を制定し、市民主体のまちづくりを積極的に進めています。

社会の仕組みが大きく変わろうとしているなか、教育もその例外ではありません。大きな転換期を迎え、教育をめぐる諸問題に対応していくためには、教育のあり方を見直し、新たな対応策を求めて取り組みを進めていく必要があります。

このような認識のもと、大和市教育委員会では、国の教育改革及び市の第7次総合計画の趣旨と精神をくみ、「大和市教育目標」に向かって、これからの社会に対応した新たな本市の市立小中学校教育の方向を示すとともに、教育課題の解決に向けた取り組みを明らかにしながら、「大和市学校教育基本計画」を策定するものです。

## 2. 構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層で構成しています。

**基本構想【平成18年度から平成29年度までの12年間】**

12年間を見通し、大和市の学校教育がめざす基本的な考え方を示しています。

**基本計画【平成18年度から平成23年度までの6年間】**

基本構想に基づき、めざす子ども像を実現するため、前期6年間の基本目標や施策の方向を示しています。

**実施計画【平成18年度から平成20年度までの3年間】**

基本計画に掲げた目標を達成するため、3年間の具体的な施策とその体系を示しています。



### 3. 策定の経緯

#### 「大和市学校教育基本計画策定会議」の設置

本計画策定にあたっては、策定及び進行管理に関する調査・研究を行うための組織として、大和市教育委員会教育総務部の代表で構成する「大和市学校教育基本計画策定会議」を設置しました。

平成15年8月から合計27回開催し、大和の教育に関するアンケートの実施及び分析、策定のための組織の検討、素案づくり等を行いました。

#### 「大和市学校教育基本計画策定委員会」の設置

平成17年5月に、学識経験者、学校教育・幼児教育関係者、地域・保護者代表者、学校評議員等で構成する「大和市学校教育基本計画策定委員会」を設置し、7回に渡って素案の検討を行いました。

#### 市民の意見の反映

本計画策定の基礎資料とするため、児童生徒、保護者、教員を対象とした「大和の教育に関するアンケート」調査を行うとともに、広く市民の意見を反映させるため、教育委員会ホームページ上に策定の経過を公開し、Eメールによる意見聴取の場を設けました。また、「教育フォーラム」を2回開催し、市民、保護者、教職員、行政職員、教育委員等の参加を得て、本市の教育についての意見交換を行いました。



第1回教育フォーラム



第2回教育フォーラム

---

# 大和市の教育課題

---

## 1. 子どもを取り巻く環境

情報化時代を迎え、社会の構造が大きく変わるとともに、子どもを取り巻く生活環境も変化しています。

これまで人間社会の営みは自然の大きな懐のなかであり、子どもも多くの人々とのかかわりのなかで育ってきました。

身の回りにあった自然の減少に伴い、異年齢の子どもたちが群れて遊び回る姿に代わって、テレビやコンピュータ、電子媒体のゲーム等に没頭する姿が多く見られるようになりました。群れて遊ぶことから個の楽しみを追求することへ、能動的に工夫して創り出す遊びから受動的に作られたプログラムに沿って活動する遊びへと子どもの遊びが変化しています。

また、家族のあり方も変化してきました。核家族化や少子化によって、家庭のなかで子どもがかかわる人の数と時間が減少しています。生活の電化が進み、子どもが家族の一員としてその役割を果たす場面も減っています。加えて生活スタイルの夜型化による生活習慣の変化や食生活の乱れも見られます。

これまで、子どもは、仲間との遊びや家族とのふれあい等を通して生活の知恵を学び、社会性を身につけてきましたが、規範意識の低下や友だちとかかわることが苦手な子どもの増加に見られるように、現代は、人間関係や社会性がはぐくまれにくい状況にあり、今後は意図的に社会性の育成を推進していく必要があります。

また、子どもを取り巻く環境の変化のなかで現代に特徴的なものとして、携帯電話やインターネットの飛躍的な普及があげられます。さまざまな知識や技能が地球規模でやりとりされるようになり、いつでもどこでも、だれもが必要な情報を手に入れることができるようになりました。一方、これらを悪用した事件も起こっており、情報機器を正しく使いこなすための知識やモラルを身につけることが求められるようになりました。

さらに、いじめ、不登校、暴力行為の他に、児童虐待等の問題が社会の不安をいっそう広げ、子どもの健康と安全を脅かしています。いのちの教育を充実させるとともに、こうした事態に、学校の危機管理はもとより、子どもを地域ぐるみで守り育てるという視点に立って対応していくことが求められています。

## 2. 本市の現況と教育課題

豊かで便利な生活は、一方でさまざまな課題を生んでいます。科学技術の進歩や経済構造の変化に伴うテレビやコンビニエンスストアの普及、それによる生活の夜型化やアンバランスな食生活、都市化による遊び場の消失、塾や習いごとによる遊び時間の減少などが子どもの生活や心身にさまざまな影響を及ぼしています。

本市における子どもの生活実態を見ると、就寝時間は、学年が進むにつれて遅くなり、中学校3年生では87%の子どもが11時以降に寝ています。

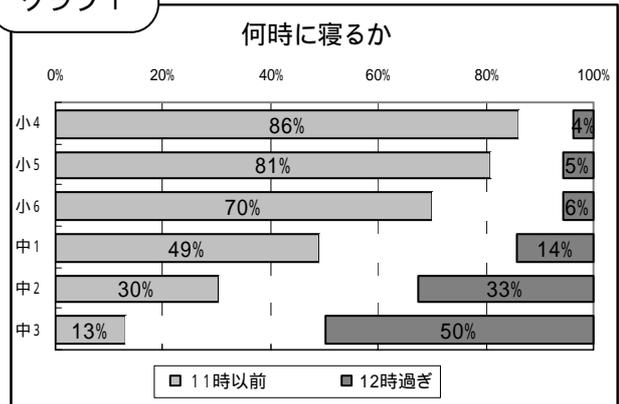
また、テレビの視聴時間は、小学生で5時間以上が約22%となっています。全体的にテレビを長時間見ている子どもが多いといえます。

男子に長時間ゲームをする子が多く見られます。中学生より小学生のほうがゲームをする時間が長く、小学生男子の約半数が2時間以上であり、中学生男子の約30%が2時間以上となっています。

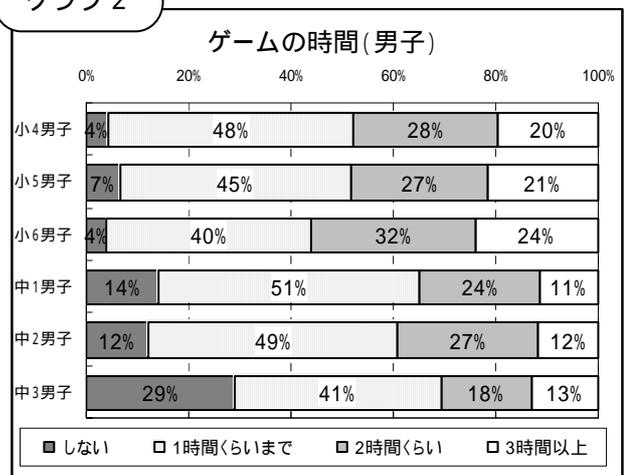
食生活では、家族全員で朝食をとることが少なく、子どもだけ、あるいは一人だけで食事をする子どもが、小学生で41%、中学生で58%となっています。

朝食を食べる日が少ない子ほど授業に集中できず、いねむりやおしゃべりをする傾向がみられるという調査結果が報告されています。睡眠や食事は心身の健康を維持するだけでなく、基本的な生活リズムを身につけ、活力ある生活を送る上で重要な役割を果たします。

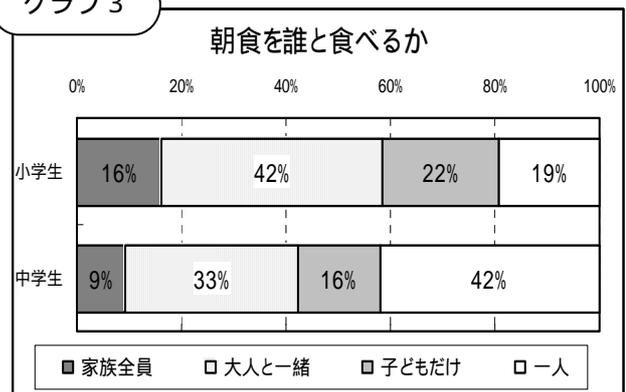
グラフ1



グラフ2



グラフ3

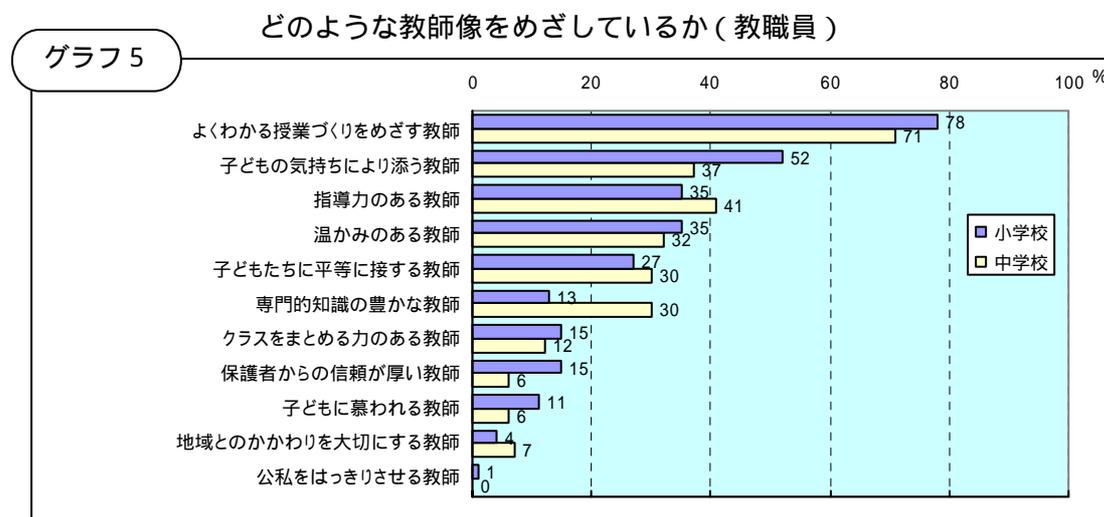
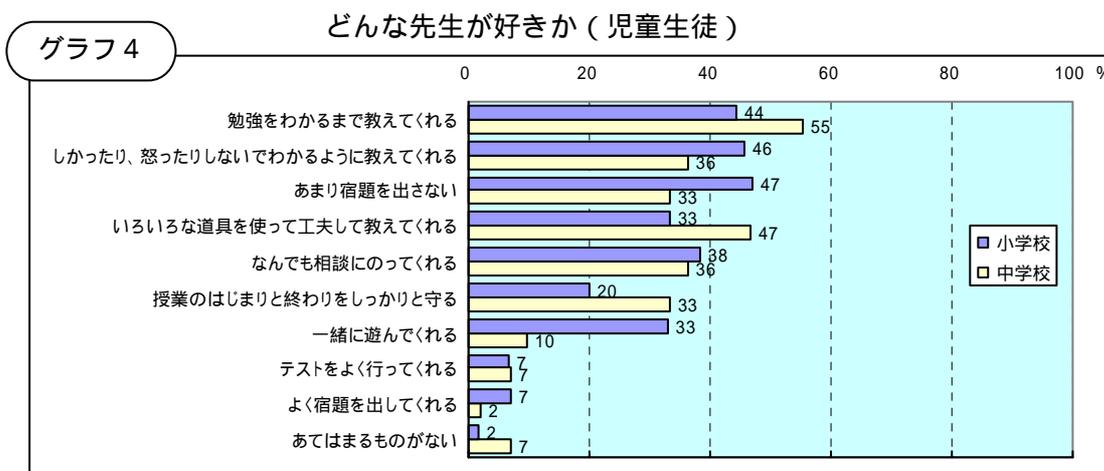


学校生活に関する調査結果を見ると、「学校が楽しいですか」という質問に、小中学生の約85%が、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えています。これを学校生活に対する満足度ととらえると、学校生活におおむね満足できている状況であるといえることができます。

しかし、「あまり楽しくない」「ぜんぜん楽しくない」と答えた子どもも約15%おり、その点を見逃すことはできません。

「学校生活のなかで好きなとき」(複数回答)は、「友だちと遊んでいるとき」や「おしゃべりしているとき」など、友だちとのかかわりの場面をあげる子どもが80%以上おり、子どもにとって友だちは重要な位置を占めています。友だちとの良好な関係を保つことは、学校生活を楽しく送るための重要なカギとなります。

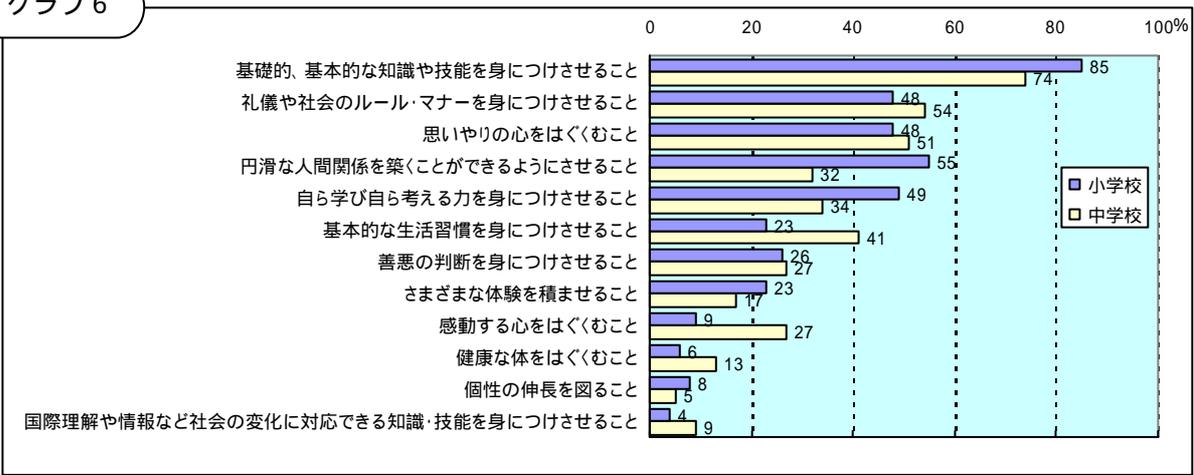
また、「どんな先生が好きか」という質問に対してはいちばん多い回答が「勉強をわかるまで教えてくれる先生」です。同様に、教師も「どのような教師像をめざしているか」という質問に対して、「よくわかる授業づくりをめざす教師」が小中学校ともにいちばん多い回答となっています。達成感や喜びを伴うわかる授業づくりが求められています。



「学校教育で大切だと思うこと」については、教師も保護者も、「自ら学び自ら考える力を身につけさせること」「基礎的、基本的な知識や技能を身につけさせること」「円滑な人間関係を築くことができるようにさせること」「思いやりの心をはぐくむこと」「礼儀や社会的ルールなどを身につけさせること」が上位となっています。人間関係づくりや思いやり、礼儀や社会性の習得などについては家庭や地域社会が担う部分もあり、学校・家庭・地域社会がいっそう連携を図り、互いに協力し合って子どもたちの成長を見守っていく必要があります。

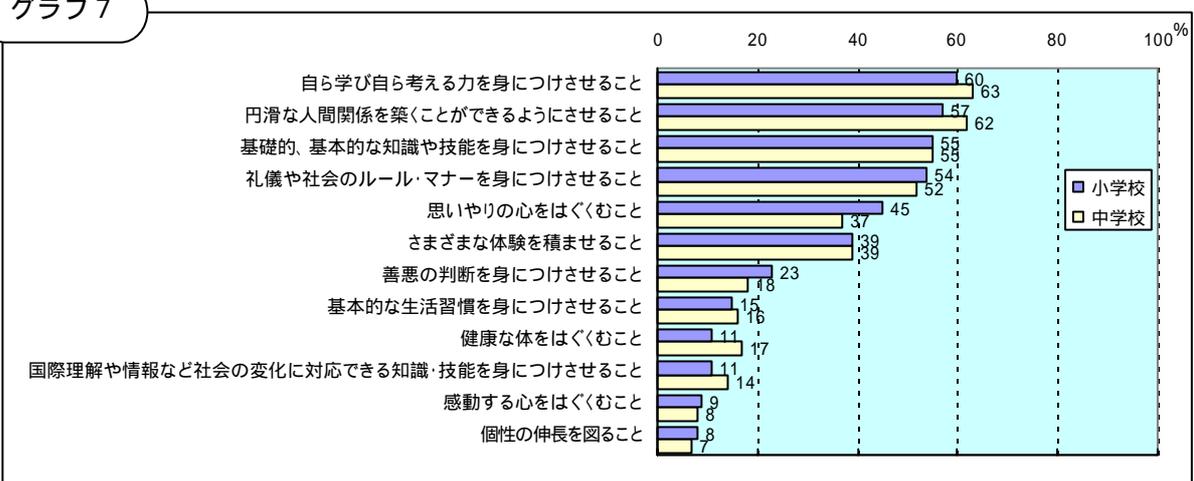
グラフ 6

学校教育で大切だと思うこと（教職員）



グラフ 7

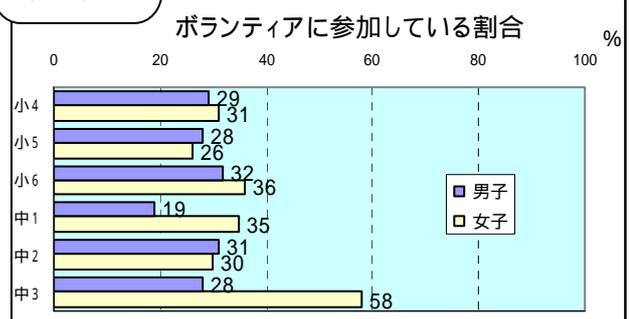
学校教育で大切だと思うこと（保護者）



ボランティア活動に参加したことがある子どもの割合は、30%前後です。中学3年女子では、58%がボランティア活動に参加したことがあると回答しています。

本市は、市民自治条例のなかで、子ども

グラフ 8

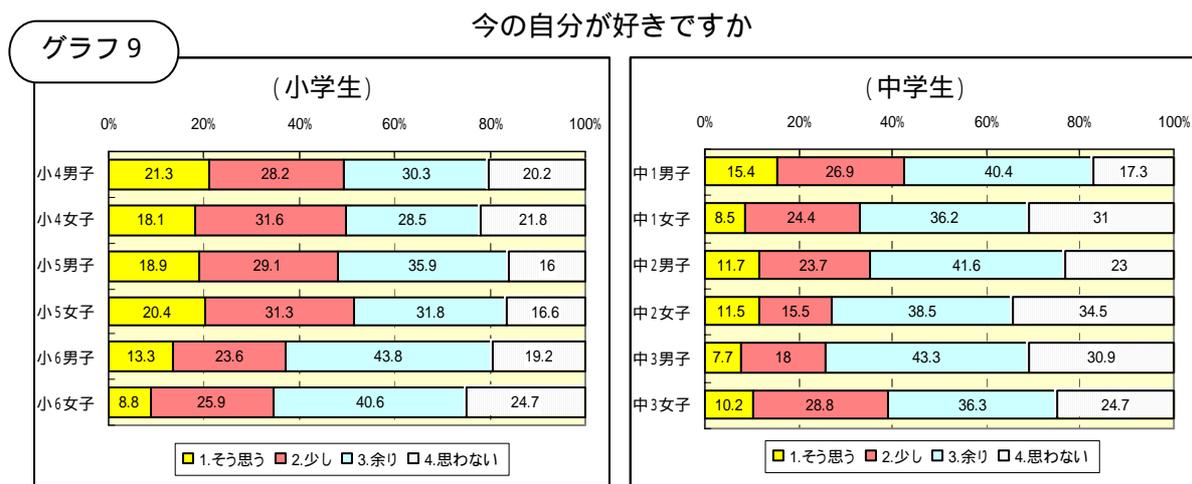


もを市民の一人として明確に位置づけ、大和市全体で市民の力を発揮したまちづくりを進めることをうたっています。子ども自身が地域社会の一員としてまちづくりに貢献し、地域への愛着をいっそう深めるために、活動を地域に広げ、実体験を通して責任感や自立心や思いやりの心をはぐくんでいくことが期待されています。

子ども自身が自己をどうとらえているか、自尊感情について調査した結果によると、「今の自分が好きですか」という質問に対して「そう思う」「少しそう思う」と答えているのは、小中学生で約40%となっており、今の自分を肯定的に受け止められない子どもが約60%になります。

自尊感情はさまざまな人々と人間関係を築く上で大切な感情であると同時に、かわり合いのなかではぐくまれる感情でもあります。

子どもたちが多様な人間関係のなかで、調整力をはぐくんでいけるよう、自尊感情を高める環境づくりが重要です。



本市では、フィリピン、ベトナム、中国、ペルー、ブラジルなど、19カ国、合計339人（平成17年度調査）の外国籍の子どもたちが学んでいます。そこでは多彩な文化との出会いや交流が生まれています。

国際化の進展は今後ますます加速していくことが予想されます。多様な文化や価値観との出会いを通じて、互いに理解を深め、友情をはぐくんでいくことが大切です。

また、LDやAD/H D等の特別な支援を必要とする子どもに目を向け、さまざまな障害のある子どもが共に学ぶ環境づくりも重要な今日的課題となっています。

< 出典 > グラフ 1 . 2 . 3 . 8 : 大和市教育研究所研究紀要第 5 3 集「児童生徒の生活実態と学習に関する意識調査」(平成 1 5 年)

グラフ 4 . 5 . 6 . 7 : 大和市教育委員会「大和の教育に関するアンケート」(平成 1 6 年)

グラフ 9 : 大和市教育研究所研究紀要第 5 6 集「児童生徒の人間関係に関する意識調査」(平成 1 7 年)

## < 大和市の教育課題 >

このような現状から、本市における主な教育課題を次のように整理します。

これらの課題は、基本目標や施策に反映させ、事業展開のなかでその解決を図ります。

- ・自分の良さに気づき、目標に向かってたくましく生きる力をはぐくむ。
- ・生活リズムを整え、生き生きとした生活を営む力を養う。
- ・地域社会の一員としての自覚を高め、責任感と自立心を養う。

自己実現・生活リズム・自立心

自己確立や自立をめざす教育  
が必要です。

➡ 基本目標 1

- ・自ら学び自ら考える力を身につけさせる。
- ・基礎的、基本的な知識や技能を身につけさせる。
- ・わかる授業づくりに努める。

自ら学ぶ力・わかる授業づくり

質の高い学びの場が保障される教育  
が必要です。

➡ 基本目標 2

- ・豊かな人間関係を築く力をはぐくむ。
- ・思いやりの心をはぐくみ、礼儀や社会性を身につけさせる。
- ・障害のある、なしを越えたふれあいや、多文化との出会いを通じて、共に生きる心を育てる。

人間関係づくり・共に生きる心

共に生きる心をはぐくむ教育  
が必要です。

➡ 基本目標 3

---

# 基本構想

---

## 1. 基本理念

### 「自ら成長する力」をはぐくむ学校教育

学校教育の基本的役割は、子どもの発達段階に応じて、知・徳・体の調和のとれた教育を行うとともに、生涯を通して学び、成長しつづけるための基盤を培うことにあります。基礎・基本を徹底し、確かな学力の定着を図ること、人間性や社会性など豊かな心や健やかな体を育成すること、さらには、一人ひとりの個性や能力の伸長を図っていくことは、これまでも大切にされてきた役割であり、これからも大切にされるべき普遍的な役割です。

将来において子どもが自らの生き方を選び、自己実現に向けて充実した生活を送るためには、確かな学力と豊かな知恵を身につけ、主体的意欲的に行動していく必要があります。

また、人の幸せは、互いに認め支え合い、共に生きようとするなかで求められます。いのちの大切さを知り、人権を尊重し、互いを深く思いやって心豊かに生きることが大切です。

一方、現代社会は、情報化の進展や価値観の多様化と相まって自己が確立しにくい状況にあり、さまざまな教育課題を生んでいます。

このような状況にあっても、しなやかで安定した自己を育てていくことは大切であり、そのためには、子ども自身がありのままの自分で愛されるという実感をもつとともに、友だちや家族や教職員や地域の人々など、身近な人々とのさまざまなかかわり合いのなかで、感動体験や達成感を味わって育つことが大切です。

失敗や成功を繰り返して得られた知識は、生きてはたらく知恵となって身につけていきます。それには、子どもたちが自分の学習過程をふり返り、自分自身を見つめ直すための、真のゆとりが必要です。

多様な価値観が交じり合うこれからの時代を生きる子どもたちには、生きてはたら

く知恵を身につけ、多様性を許容してさまざまな問題に冷静に対応していく力が必要とされます。それは、言葉を通して、自分の見方、感じ方、考え方を相手に伝え、人々とのかかわりのなかでよりよく生きようとする社会的実践力を備えた姿でもあります。

これらを支えるものは「自ら成長する力」であり、自ら成長する力は、自己実現に向かって生涯学びつづける力となります。

みずみずしい感性と豊かな心を基盤に、自ら成長する力をもって、これからの時代をたくましく生きる子どもを育てます。

## 2 . 三つの視点

大和市は、あすを担う青少年が自己の行動に自覚と責任をもち、心身ともに明るくたくましく成長することは、すべての市民の願いであるとして、昭和57年に「明るくたくましい青少年が育つ都市」を宣言しました。そこには、この願いを実現するために、青少年自らの努力を期待するとともに、家庭・学校をはじめ地域社会が一体となり、市民の総力をあげて青少年育成の施策を推進する決意が込められています。

自ら成長する力をはぐくむために、本計画においても、つぎの三つの視点で基本理念を構成します。

### (1) 子どもを中心に据えた学校教育

子どもにとって未来は、明るいもの、開かれているもの、夢あるものです。子どもは、明日に向かって生きています。そして、すべての子どもは、その内にすばらしい潜在能力と可能性を秘め、それを発揮する時と場を待っています。子どもの内にある能力を引き出し、開花させることが教育の大切な役目といえます。

子どもは、かけがえのない存在として愛され尊重されることによって、安心と自信を得、のびのびと自己を発揮します。

一人ひとりの子どもをかけがえのない存在として尊重し、子どもの幸福を第一に考えた教育 「子どもを中心に据えた教育」を展開します。

## ( 2 ) 家庭と共につくる学校教育

家庭は子どもの人間形成にとって重要な場といえます。家族の愛情を基盤として、基本的な生活習慣、善悪の判断、思いやり、感謝の心、自立心等社会で生活していく上で大切な基本的資質を身につける場として、これまでも重要な役割を担ってきました。

近年、社会変化に伴って生活スタイルが変化したことなどから、生活習慣や食生活の乱れが指摘されています。さらに、規範意識の低下やいじめ、不登校、児童虐待、薬物乱用、犯罪の低年齢化などの深刻な問題も生じています。

かつてであれば、学校、家庭、それぞれが役割を果たすことで解決できたさまざまな問題も、今は単独では解決できない状況にあり、明確に役割を分担して進めることが難しい時代となっています。こうした状況にあっては、それぞれが本来の役割を自覚し責任を果たすとともに、互いに協力し補完し合って子どもの成長を支えていく必要があります。

子どもの健やかな成長という共通の願いのもとに、家庭の協力を得て「家庭と共につくる学校教育」を推進します。

## ( 3 ) 地域社会と共につくる学校教育

子どもは、家庭、学校、そして地域社会で育ちます。地域社会は、生きる知恵や社会性を自然に身につける場として重要な役割を担っています。また、思いやりや共に生きる心をはぐくむ場としても重要です。

新たな教育課題が山積しているなか、新しい学習環境を整え、子どもの成長を見守り支援するために、地域の人々の知恵と力が必要です。

学校は地域社会へ、地域社会は学校へ、それぞれのもてる力を提供しあい、子どもが健やかに育つ環境づくりに努め、「地域社会と共につくる学校教育」を推進します。

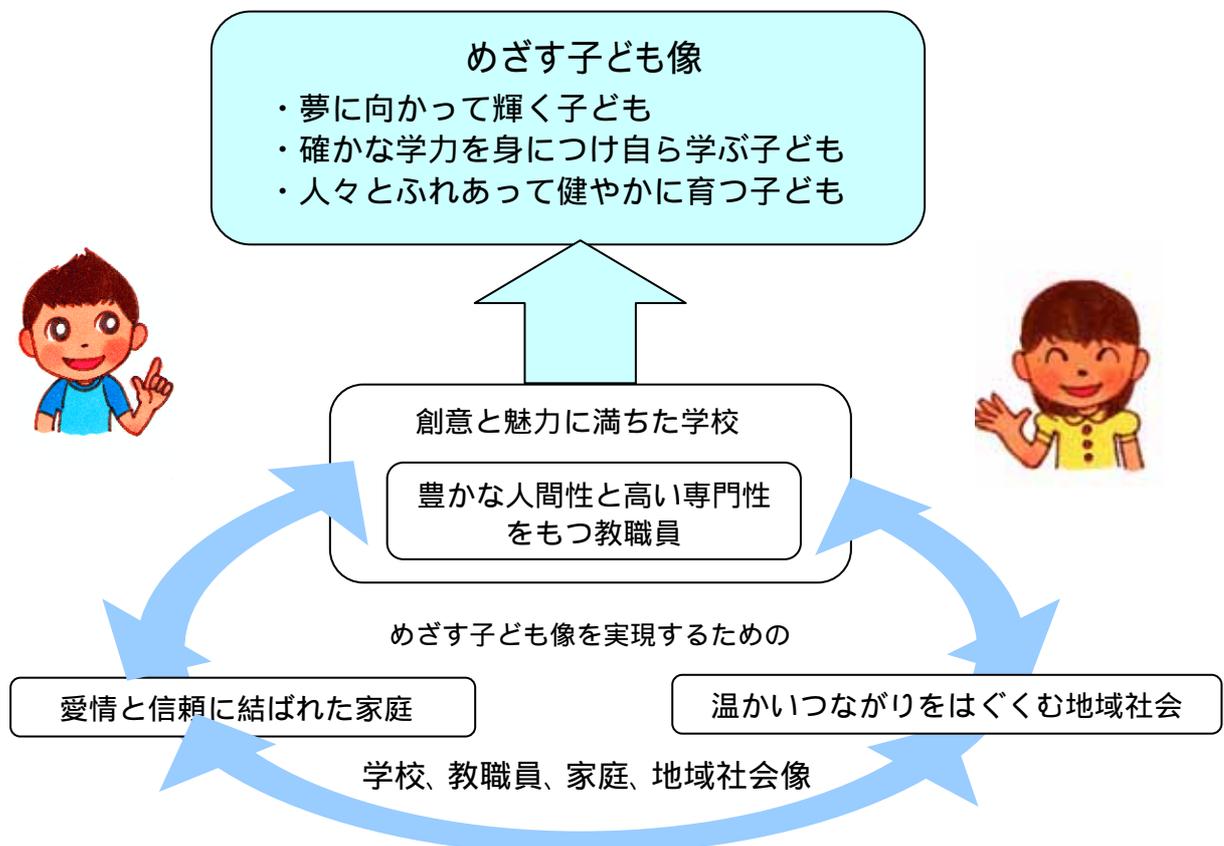
# 基本計画

## 1. 基本目標

「『自ら成長する力』をはぐくむ学校教育」を実現するために、つぎの基本目標を設定します。

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| 基本目標 1 | 夢に向かって輝く子ども        |
| 基本目標 2 | 確かな学力を身につけ自ら学ぶ子ども  |
| 基本目標 3 | 人々とふれあって健やかに育つ子ども  |
| 基本目標 4 | 創意と魅力に満ちた学校        |
| 基本目標 5 | 豊かな人間性と高い専門性をもつ教職員 |
| 基本目標 6 | 愛情と信頼に結ばれた家庭       |
| 基本目標 7 | 温かいつながりをはぐくむ地域社会   |

基本目標 1～3は、めざす子ども像、基本目標 4, 5, 6, 7は、めざす子ども像を実現するための学校像、教職員像、家庭像、地域社会像を示しています。



## 2 . 基本目標と施策の方向

### 基本目標 1 夢に向かって輝く子ども

自己のよさや可能性に気づき、夢や目標に向かってたくましく生きる児童生徒の育成を図ります。

一人ひとりの子どもは、将来の自己や社会に明るい夢と希望を抱き、個性を發揮してよりよく生きたいという願いをもっています。こうした自己の実現をめざし、心豊かにたくましく生きる人間の育成が、これからの学校教育に求められています。

夢や目標に向かって可能性を開き、たくましく生きる人間に育つよう、個性に応じた教育の推進に努めます。

そのために、一人ひとりのよさや個性が發揮でき、互いに認め合い、高め合うことのできる豊かな教育環境や人間関係づくりを進めるとともに、自らを見つめ、自分の生き方を考えることのできる子どもを育てます。

子どもたちが友だちとともに学習し生活するなかで、自分自身が認められ、喜びやつらさを分かち合える温かい風土づくりに努めます。

自己実現に向かって生きる大人との出会いやかかわりを通して、大人の生きる姿に学び、夢をふくらませることができるよう、地域教育力の活用やキャリア教育<sup>1</sup>を推進します。

児童生徒指導においては、個性をはぐくみ豊かな人間関係を育てる指導の工夫や、不登校・児童虐待・いじめ問題への対応等、指導体制の充実を図って積極的な取り組みを行います。不登校については重要課題として取り組みます。

特別支援教育<sup>2</sup>においては、将来積極的に社会参加するために必要な知識、技能、態度、習慣を養うとともに、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実を図ります。

#### 施策の方向

個性を生かし、よさや可能性を伸ばす教育の推進  
自己実現を促すキャリア教育の推進  
児童生徒指導の充実  
特別支援教育の推進

<sup>1</sup> **キャリア教育**：夢と希望を育てることを原点とし、児童生徒が自らの人生を歩む上で、働くことの意義など望ましい職業観や労働観をはぐくみ、自己の個性を理解して、主体的に進路を選択し、将来にわたって自己肯定感、自己有用感をもって生きることができるよう能力や態度を育成する教育。

<sup>2</sup> **特別支援教育**：従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、その対象ではなかったLD(学習障害)、AD/H D(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症も含めて障害のある児童生徒に対してその一人ひとりの教育的ニーズを把握し、児童生徒のもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育を通じて必要な支援を行うもの。

## 基本目標 2

### 確かな学力を身につけ自ら学ぶ子ども

体験的・問題解決的な学習などを通して、自ら学び、自ら考える力をはぐくみ、ゆとりのなかで確かな学力の向上を図ります。

新しい時代を生きる子どもには、「生きる力」を身につけさせることが求められており、その知的側面である「確かな学力」の向上を図ることが重要な課題となっています。

子どもたち一人ひとりの自己実現に向けて生きてはたらく力となるものは、自ら獲得した知識や技能、そしてそれを生かすことのできる実践力です。子どもたちはこのような資質や能力を、自らの興味や関心を生かしながら、共に学び合うなかで身につけていきます。

子どもが自らの学びに自信をもち、それらを基盤に新たな学びを求め、深め広げていくには、基礎基本の確実な定着を図るとともに、子ども自身が学ぶ喜びを実感することが不可欠です。そのためにも、学校は、子どもの能力や興味・関心を十分に把握し、子どもにとって価値ある学び、意味ある学びとなるよう、目標や育てたい力を明確にしてわかる授業をつくとともに、指導方法や指導形態の工夫を図ることが大切です。

学校における学習の時間においては、それぞれのねらいに基づき、一人ひとりのよさが発揮され、学ぶ喜びや楽しさを実感できる学習活動を展開します。

教科やその内容によって学習集団を学級を越えて弾力的に編制したり、問題解決学習、体験学習、グループ学習、個人学習など、学習の方法や形態を工夫したりして豊かな学びをつくります。

環境教育、情報教育、国際教育を推進し、大きく変動する時代に対応できる能力や態度を育てます。

#### 施策の方向

確かな学力を身につけさせる教育の推進

豊かな学びをつくる学習活動の推進

時代に対応する教育の推進

## 基本目標 3

### 人々とふれあって健やかに育つ子ども

人々とのふれあいを通して、豊かな人間性や社会性をはぐくみ、健やかに生きる児童生徒の育成を図ります。

子どもは、人とのかかわり、自然とのかかわり、社会とのかかわりから生きていく上で大切な知恵を獲得し、社会性を身につけ、人間性をはぐくんでいきます。

現代は、少子化や核家族化の進行のなか、仲間と群れて遊ぶ機会が減り、遊びのなかで社会性をはぐくむことが難しくなっており、生活スタイルの変化によって家庭内でのふれあいの機会も減ってきています。

このような現状から、真・善・美などの価値に対するみずみずしい感性を基盤とし、自他を大切に思う心、公正な判断力、責任感などを身につけた豊かな人間性や社会性を養うことが大きな課題といえます。

また、子どもが心身共に健やかに成長することはすべての人々の願いであり、子ども自らが自分のいのちや健康を守り保持する能力を身につけることが必要です。

さらに、ふれあいを通して、郷土の自然、歴史、文化に親しみ、わがまちへの愛着をふくらませるとともに、地域社会の一員としての自覚を高めることが期待されます。

地域の人々や異年齢の子どもたちとの交流を図り、体験活動やスポーツを通して、豊かな人間性や社会性をはぐくんでいきます。

道徳の時間はもとより各教科、特別活動及び総合的な学習の時間の特性に応じて、適切な指導を行い、よりよく生きる力を伸ばす道徳教育を推進します。

読書活動や文化活動を通して、豊かでしなやかな心をはぐくんでいきます。

人権尊重の理念についての正しい理解を深め、共に生き、支え合う「わがまち大和<sup>3</sup>」の実現をめざした人権教育を進めます。

体力の向上、生活習慣や食生活の確立を図るとともに、安全・防災教育の充実に努め、いのちの教育と健康教育を推進します。

#### 施策の方向

ふれあい教育・体験活動・スポーツ活動の推進

道徳教育の推進

読書活動や文化活動の推進

人権尊重の教育の推進

いのちの教育・健康教育の推進

<sup>3</sup> わがまち大和：大和市人権指針は、すべての市民が自他の人権を尊重し、共に生き、支え合う「わがまち大和」の実現を目指すことを基本理念としている。（平成18年3月策定）

## 基本目標 4

### 創意と魅力に満ちた学校

生き生きとした教育活動を行う環境を整え、創意ある教育課程を編成するとともに、開かれた学校づくりを推進します。

学校教育は、画一的な教育から、自立と創造の教育へと転換し、子どもの個性や能力の伸張を図るとともに地域の実態を踏まえた特色ある学校の創造をめざしています。

子どもが、ゆとりのなかで確かな学力を身につけ、豊かに生き生きと学校生活を送ることができるよう、創意ある教育課程を編成するとともに、学校、家庭、地域社会が相互の信頼関係を築き、地域の風が行き交う魅力ある学校づくりに努めることが大切です。

自ら成長する子どもと共に、創意ある学校経営や授業づくりをめざし、学校自らも成長し続けることが求められています。

教育活動に関する情報の提供による学校の説明責任を果たし、地域に信頼される開かれた学校づくりに努めます。

学校全体の協力・協働体制の確立を図るとともに、柔軟で多様な教育活動ができるよう、創意を生かした学校・学年・学級経営に努めます。

創意ある教育課程を編成し、教師と子ども、子ども相互の人間的なふれあいを深めるなかで、一人ひとりの理解に努め、豊かな自己実現を支援します。

学校評議員制度を活用し、地域の声を反映した学校経営に努めます。

すべての子どものいのちと人権が守られ、安心して生き生きとした学校生活を送れるよう、学校環境や体制づくりに努めます。

教育活動が円滑に効果的に実施されるよう、教材・教具や施設設備の計画的な整備に努めます。

## 施策の方向

活力ある学校経営

創意ある教育課程の編成

地域の風が行き交う開かれた学校づくり

「安全と安心」に守られた学校環境づくり

子どもが生き生きと過ごす学校環境づくり

## 基本目標 5

### 豊かな人間性と高い専門性をもつ教職員

専門職としての資質や指導力の向上を図り、責任と誇りをもって教育活動に取り組みます。

教職員の子どもを見る目の深さによって、教育は大きく変わります。豊かな人間性をもとに、専門家としての責任と誇りをもって教育活動に取り組んでいくことが大切です。責任と誇りは、広くて深い人間観、教育観、子ども観に裏付けられ、専門家としての力をみがき、自己を変革し続けようとする姿勢に支えられます。

人間関係の希薄化が進むなか、子どもの言葉に真剣に耳を傾け、カウンセリングマインド<sup>4</sup>をもつ的確に対応し、子どもの可能性を信じてともに成長していく教師像が求められています。

このように教育者としての使命感や愛情、人間の成長・発達についての深い理解、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養など、いつの時代においても求められる資質能力に加え、不測の事態に対応する柔軟な問題処理能力、子どもや保護者をはじめ職場の同僚などとかかわる人間関係力、マネジメント感覚も重要となっています。

学校教育が抱える課題が複雑・多様化する現在、教職員自身も不断に力をみがき、学び続けることが必要とされています。

子どもにとって楽しく充実した学校生活となるよう、鋭い人権感覚と温かい愛情をもって一人ひとりの成長や集団の人間関係づくりを支援します。

社会の変化に対応できる教育経営、教科教育にかかわる基礎的・専門的知識及び技能についての研修を推進します。

校内研究・研修は教育実践の改善に直接結びつくものです。わかる授業づくりをめざし、充実した研究・研修を組織的計画的に進めます。

## 施策の方向

教職員の教育研究の推進と研修の充実

校内研修充実のための支援

<sup>4</sup> **カウンセリングマインド**：すべての子どもによりよい成長と変化を求める心があることに信頼を寄せ、子どもの考えや悩みなどを受けとめ、その内面的な気持ちに共感すること。

## 基本目標 6

### 愛情と信頼に結ばれた家庭

家庭は、豊かな人間性をはぐくみ、明日に向けての活力を生み出す源です。学校は、家庭との相互理解を深め、子どもの健やかな成長を共通の願いとして連携をいっそう進めます。

愛情は、子どもの感性を豊かに耕し、人への信頼や自尊感情をはぐくみます。

家庭教育は愛情と信頼を基盤に、自制心、自立心、思いやりなど生きる力の基礎的な資質や能力をはぐくむ場であり、すべての教育の出発点でもあります。

今日山積する教育課題には、家庭の協力なしには解決できないものが多く、学校と家庭とは信頼関係をもとに、課題解決に向けて連携していくことが必要です。

また、子どもにとって家庭は、自分を守るいちばん安全な場所であり、安心できる場所でもあります。

近年は、子どもの健やかな成長を願いつつも、核家族化、少子化、情報過多などにより、子育てへの不安が増大し、孤立する傾向が見られます。

家庭を孤立させないためにも、子育てを地域社会のネットワークのなかで見ていくことが大切です。

子どもの真の幸福を願い、健やかな成長を支えるため、学校は積極的に情報の提供や共有を図り、家庭との相互理解を深めて連携をいっそう進めます。

子どもの自立心を育て、学びを豊かにするために、地域活動への参加はもちろん、保護者の学校に対する積極的な協力が求められます。学校は、保護者の学校への協力の場面を進んで設定します。

家庭が子育てに自信をもてるよう、社会教育<sup>5</sup>関係諸団体とも協力して学びの場をつくり、家庭とともに子どもの理解を深めます。

#### 施策の方向

学校と保護者との連携組織（PTA）の活性化  
子ども理解に関する講座の充実

<sup>5</sup> **社会教育**：学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動をいう。

## 基本目標 7

### 温かいつながりをはぐくむ地域社会

学校は、温かいつながりをはぐくむ地域社会の実現のために、情報の提供や共有を図り、地域社会との協働を進めます。

子どもの生活の場は、学校や家庭だけでなく、地域<sup>6</sup>でもあります。子どもの自己実現に向けた生き方を支援していくためには、地域で活動している人などとのさまざまななかかわり合いが必要となります。そのため、学校では、子どもたちの教育を、学校を含めた地域全体で支えていけるよう、相互理解を深め、信頼関係を築き、開かれた環境づくりを進めています。

地域での大人と子どもの交流は、地域に活力を与えます。子どもは経験豊かな地域の人々とのふれあいを通して自分の可能性に気づき、希望や夢をはぐくみます。そして明るく希望をもった子どもの姿は、さらに地域を活性化させます。

大和に生まれ育った子どもが大和に愛着をもち、地域の一員であるという自覚を高め、進んで温かいつながりを結んでいけるよう、学校のもてる力を提供し、地域との協働をいっそう進めます。

子どもの実態や地域の特性を生かした特色ある学校づくりを推進します。

安心して学校生活を送れるよう、地域の人々と協働して子どもの安全を守ります。新しい公共<sup>7</sup>の理念を生かし、教育活動全体を通して学びのパートナーとなる人々を広く地域に求め、地域のもつ教育力を積極的に活用します。

学校機能や学校施設を地域に開放したり、子どもが地域コミュニティの活動に参加したりするなど、地域と協力して子どもを健やかに育てる体制を整えます。

## 施策の方向

地域社会と協働した特色ある学校教育の推進

子どもを健やかに育てるための地域ネットワークへの参画

<sup>6</sup> **地域**：ここでいう地域とは、地域社会のことで、地域の人々やその環境を含んでいる。

<sup>7</sup> **新しい公共**：行政だけが公共を担うのではなく、市民や市民団体、事業者、行政が共通の理念のもとで協力しあいながら「公」の領域に取り組むという考え方。一人ひとりの「私」を大切にしながら共に生き共に育ち合える社会をめざして「公共」を協働して担っていこうという考えに基づいている。

# 実施計画

基本目標を達成するための3年間（平成18年度～平成20年度）の具体的な取り組みを示しています。

そのなかで、重点的に取り組むものを重点施策として示します。

この実施計画は3年ごとに見直しを行います。

## 1. 施策の体系と重点施策

### 基本目標 1

### 夢に向かって輝く子ども

- 個性を生かし、よさや可能性を伸ばす教育の推進
- 自己実現を促すキャリア教育の推進
- 児童生徒指導の充実
- 特別支援教育の推進

#### < 主な取り組み >

学校行事等への支援 地域指導者の派遣（部活動） 子ども科学教室の開催 キャリア教育の推進 児童生徒理解に基づく指導の充実 障害児の就学相談 国際級における児童生徒指導 外国人児童生徒教育の推進 進路指導の充実 ことばの教室の運営 院内学級の運営 ヘルパー等の派遣 学校教育相談の充実 不登校児童生徒支援活動の充実 外国籍児童生徒とその保護者向け翻訳本「楽しい学校」配布 就園や就学への援助

### 重点施策

#### 個性や可能性を伸ばす教育を進めます。

- ・個が生き、個が輝く学習指導、学校行事、部活動等の推進・充実のために、支援を行います。
- ・子ども科学教室を土曜日に、やまと子ども科学フェスティバルを夏休みに開催し、科学技術への夢をはぐくみます。

#### キャリア教育を推進します。

- ・大人の生きる姿に学び、夢をふくらませることができるよう、多様な教育力の活用を支援します。
- ・調査研究部会を設置し、平成19年度までに学習プログラムの開発及び実践事例の収集を行います。

#### 学校教育相談の充実を図ります。

- ・スクールカウンセラーの活用を図ります。
- ・子どもと親の相談員（小学校）、心の教室相談員（中学校）の配置を充実させます。
- ・青少年相談室における不登校相談を充実させるとともに不登校訪問相談員を派遣します。

#### 特別支援教育を推進します。

- ・特別支援教育コーディネーターを核とした校内委員会の充実を図ります。
- ・スクールアシスタントを平成18年度までに全小中学校に派遣します。
- ・大和市特別支援教育巡回相談チームの展開を図ります。
- ・障害児教育ヘルパーの派遣を充実させます。

## 基本目標 2

### 確かな学力を身につけ自ら学ぶ子ども

- 確かな学力を身につけさせる教育の推進
- 豊かな学びをつくる学習活動の推進
- 時代に対応する教育の推進

#### < 主な取り組み >

少人数指導等多様な指導形態・指導方法による基礎学力の定着 教材教具の研究 教科書等の整備 情報教育の推進 パーソナルコンピュータの整備 やまとみどりの学校プログラムの実施 国際教育研修会の開催 外国人英語指導助手や国際教育指導員の派遣 選択学習幅の拡大

## 重点施策

#### 多様な指導方法・指導形態を工夫します。

- 学習集団や学習の場の多様化、学習時間の弾力化など、学校の実情に応じた効果的な学習を進めます。

#### 今日的な教育課題についての研究を進めます。

- 確かな学力や学習意欲の向上など今日的な課題について、教育課題研究推進校（小学校2校、中学校1校）として研究委託を行い、その成果を中間発表会、本発表会により市内小中学校に広めます。

#### 環境教育・情報教育の充実を図り、時代に対応した生きる力をはぐくみます。

- 「やまとみどりの学校プログラム」を推進し、地域や家庭と一体になって進める環境教育をめざします。
- 情報教育の推進を図るため、平成19年度までに市内全小中学校のコンピュータ機器を更新します。



### 基本目標3

## 人々とふれあって健やかに育つ子ども

- ふれあい教育・体験活動・スポーツ活動の推進
- 道徳教育の推進
- 読書活動や文化活動の推進
- 人権尊重の教育の推進
- いのちの教育・健康教育の推進

#### < 主な取り組み >

体験活動の推進 夏休み子どもまなびや事業の充実 道徳教育の充実 読書活動の推進  
図書整理員の派遣 学校図書館と市立図書館の連携 芸術文化活動の推進 人権教育の  
推進 いのちや食に関する指導の充実 児童生徒や教職員の健康増進 環境検査 栄養  
職員の学習指導参画 性教育や喫煙・飲酒・薬物防止教育の充実

### 重点施策

自然や人々とのふれあいを通して豊かな感性、社会性、人間性をはぐくみます。

- ・体験活動、ボランティア活動を社会教育関係諸団体とも協力して積極的に推進します。

「大和市子ども読書活動推進計画」に基づき、文字活字文化に親しむ態度を養います。

- ・朝読書や読み聞かせなど、書物に親しむ取り組みを支援します。

自分の願いや思いを話せ、他の人の考えや願いを受けとめる仲間づくりの育成に努めます。

- ・人権教育、道徳教育、教科教育をはじめ、学校教育のあらゆる場面で育成に努めます。
- ・学級経営、グループづくりに人間関係づくりの手法を取り入れます。

## 基本目標 4

### 創意と魅力に満ちた学校

- 活力ある学校経営
- 創意ある教育課程の編成
- 地域の風が行き交う開かれた学校づくり
- 「安全と安心」に守られた学校環境づくり
- 子どもが生き生きと過ごす学校環境づくり

#### < 主な取り組み >

活力ある学校経営の推進 二学期制の実施 学校評価の充実 学校評議員制度の活用  
学校支援ボランティア制度の整備 幼保小中高の連携 教材教具の充実整備 校内指導  
体制の充実 教育情報の提供 衛生管理体制の充実 読書環境整備 校種間の連携 通  
学区の弾力的運用 児童相談所・警察との連携 学校安全の強化 防災教育の実施  
光丘中学校建て替え事業 学校環境衛生の向上 給食施設の整備 屋内運動場の建て替  
え 学校施設設備の改修

## 重点施策

活力ある学校づくりを推進するために、大学との連携を進めます。

- ・大学のインターンシップやボランティア制度の活用等、連携の可能性について研究し、平成19年度の試行をめざします。

二学期制を実施し、創意ある学校教育を展開します。

- ・平成18年度より市内小中学校で二学期制を導入し、学校ごとに創意ある教育課程を編成します。

学校評価の充実を図ります。

- ・内部評価を充実し、外部評価を学校経営に生かします。
- ・学校評議員制度を活用します。

保護者や地域の協力を得て、児童生徒の安全を守ります。

- ・登下校や地域での活動の安全を確保するために、保護者や地域の人々の目、声、動きを子どもたちの周囲に集める手だてをこころじます。
- ・各学校の状況に応じた防犯教育、安全教育の徹底を図ります。

学校支援ボランティア人材バンクの整備・充実を図り、地域の教育力を活用します。

- ・図書整理、授業アシスタント、行事アシスタント、読み聞かせ等ボランティアを募り、学校支援体制をつくります。

老朽化した学校施設を建て替え、教育環境を整備します。

- ・光丘中学校の校舎建て替え工事を平成18, 19, 20年度に実施します。
- ・大和小学校の屋内運動場（体育館）建て替え工事を平成20年度に行います。

## 基本目標 5

## 豊かな人間性と高い専門性をもつ教職員

教職員の教育研究の推進と研修の充実  
校内研修充実のための支援

### < 主な取り組み >

教職員研修や研修会の充実（初任者研修 10年経験者研修 学校経営研修会 特別支援教育コーディネーター連絡会 障害児教育ヘルパー研修会 特別支援スクールアシスタント研修会 不登校児童生徒指導研修会 社会体験研修等） 教育課題の調査研究 教育資料等の刊行 指導図書支援 人権・同和教育への支援 学校訪問による指導助言 教育研究や授業改善への支援

## 重点施策

教職員の人権感覚をみがきます。

- ・ 職責や経験年数に応じて研修を実施します。
- ・ 人権・同和教育に関する校内研修等へ講師を派遣します。

教職員の資質向上を図り、専門性を高める研修を充実させます。

- ・ 今日的な教育課題や子ども理解、児童生徒の人間関係づくり等に関する研修講座を開催します。

教育課程研究協議会の成果を小中学校へ広めます。

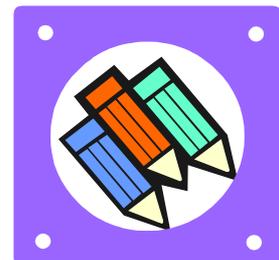
- ・ 市内小中学校に研究員として委嘱した教職員による多様な指導方法についての研究を推進します。

総括教諭を配置し、教員の人材育成を図ります。

- ・ 総括教諭は所掌グループのリーダーとして、業務の進行管理を行うとともに校内で教員の人材育成に努めます。

栄養教諭の育成を推進します。

- ・ 現在求められている「食」指導の充実や望ましい食習慣の形成のため、市内栄養職員の単位取得を支援します。



## 基本目標 6

## 愛情と信頼に結ばれた家庭

学校と保護者との連携組織（PTA）の活性化  
子ども理解に関する講座の充実

### < 主な取り組み >

学校と保護者との連携組織との協力（明るい家庭づくりの推進・留守家庭の児童対策等）  
子ども理解に関する講座の公開と充実 食育の推進

## 重点施策

積極的に情報提供を行います。

- ・子どもの様子や子どもが健やかに成長するための情報を、さまざまな場面をとらえて、積極的に提供します。

食育を家庭と共に推進します。

- ・親子料理教室、学校給食講習会、試食会、調理講習会の充実を図ります。
- ・給食だよりを通して食に関する情報を提供します。

子どもの体と心についての講座や教育講演会を充実させ、家庭と共に子ども理解を深めます。

社会教育関係諸団体と協力して保護者の学びの場をつくります。

## 基本目標7

## 温かいつながりをはぐくむ地域社会

地域社会と協働した特色ある学校教育の推進

子どもを健やかに育てるための地域ネットワークへの参画

### < 主な取り組み >

地域と連携した学校教育の推進 ふれあい広場への参画

子どもが健やかに育つ体制づくり（青少年問題協議会、家庭・地域教育活性化会議、青少年指導員連絡協議会、子ども会連絡協議会、母親クラブ連絡協議会等との連携）

## 重点施策

大和市の総合計画と連動して子どもを大切にしたまちづくりを進めます。

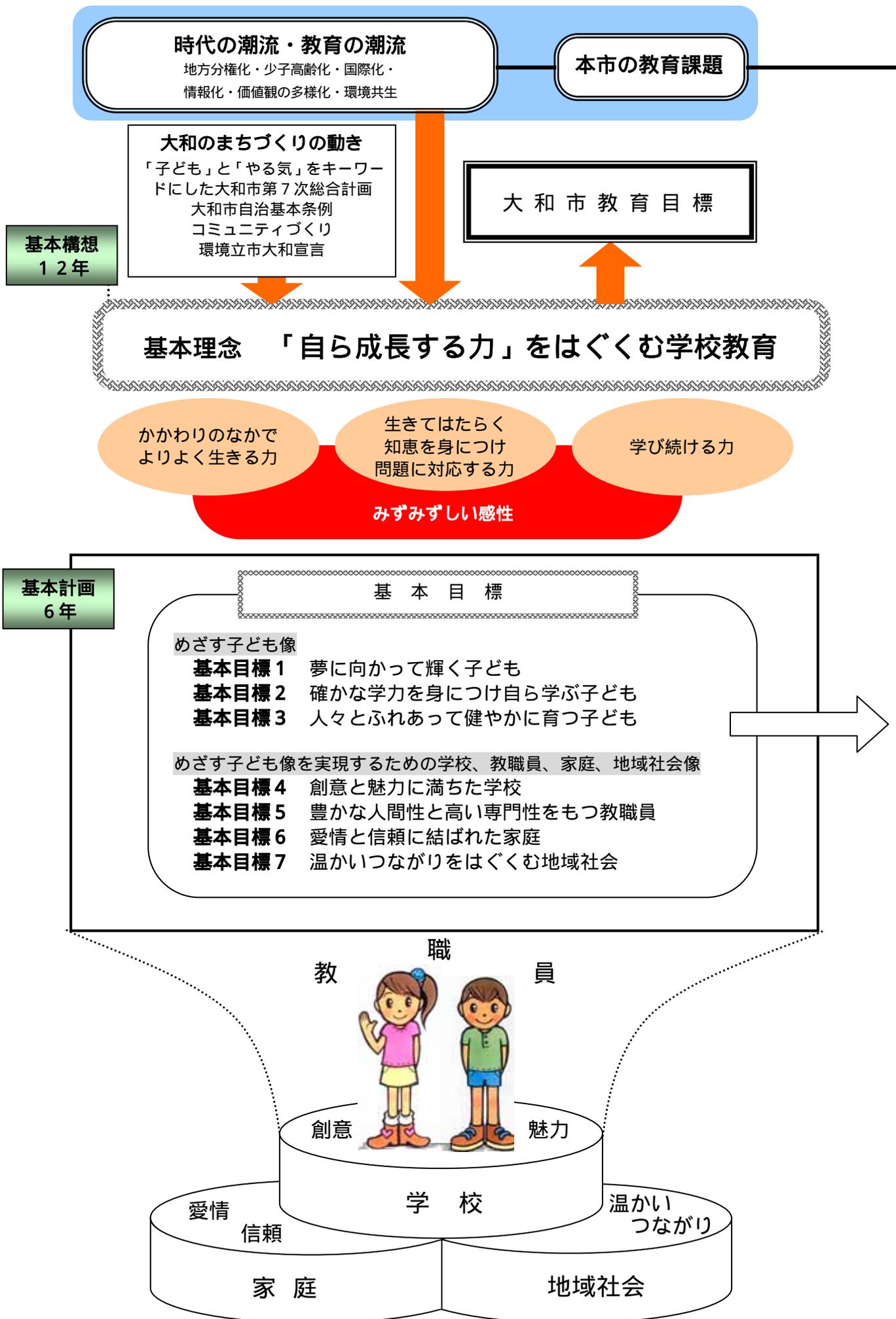
- ・自治会などの地域組織、市民活動団体、社会教育関係諸団体の活動と連携し、地域との協働による安全安心のまちづくりを推進します。
- ・ふれあい広場に積極的に参画し、子どもを中心とした地域コミュニティの活動を地域とともに推進します。

教育フォーラムを開催し、学校、家庭、地域の交流を図ります。

- ・毎年教育フォーラムを開催し、教職員、保護者、市民、行政が子どもの教育について共に考える場を設定します。



## 2. 全体構想図



自己実現・生活リズム・自立心

自分の良さに気づき、目標に向かってたくましく生きる力をはぐくむ。  
生活リズムを整え、生き生きとした生活を営む力を養う。  
地域社会の一員としての自覚を高め、責任感と自立心を養う。

自ら学ぶ力・わかる授業づくり

自ら学び自ら考える力を身につけさせる。  
基礎的、基本的な知識や技能を身につけさせる。  
わかる授業づくりに努める。

人間関係づくり・共に生きる心

豊かな人間関係を築く力をはぐくむ。  
思いやりの心をはぐくみ、礼儀や社会性を身につけさせる。  
障害のある、なしを越えたふれあいや、多文化との出会いを通じて、共に生きる心を育てる。

< 施策の方向 >

実施計画  
3年

< 重点施策 >

基本目標  
1

個性を生かし、よさや可能性を伸ばす教育の推進  
自己実現を促すキャリア教育の推進  
児童生徒指導の充実  
特別支援教育の推進

個性や可能性を伸ばす教育を進めます。  
キャリア教育を推進します。  
学校教育相談の充実を図ります。  
特別支援教育を推進します。

基本目標  
2

確かな学力を身につけさせる教育の推進  
豊かな学びをつくる学習活動の推進  
時代に対応する教育の推進

多様な指導方法・指導形態を工夫します。  
今日的な教育課題についての研究を進めます。  
環境教育・情報教育の充実を図り、時代に対応した生きる力をはぐくみます。

基本目標  
3

ふれあい教育・体験活動・スポーツ活動の推進  
道徳教育の推進  
読書活動や文化活動の推進  
人権尊重の教育の推進  
いのちの教育・健康教育の推進

自然や人々とのふれあいを通して豊かな感性、社会性、人間性をはぐくみます。  
「大和子ども読書活動推進計画」に基づき、文字活字文化に親しむ態度を養います。  
自分の願いや思いを話し、他の人の考えや願いを受けとめる仲間づくりの育成に努めます。

基本目標  
4

活力ある学校経営  
創意ある教育課程の編成  
地域の風が行き交う開かれた学校づくり  
「安全と安心」に守られた学校環境づくり  
子どもが生き生きと過ごす学校環境づくり

活力ある学校づくりを推進するために、大学との連携を進めます。  
二学期制を実施し、創意ある学校教育を展開します。  
学校評価の充実を図ります。  
保護者や地域の協力を得て、児童生徒の安全を守ります。  
学校支援ボランティア人材バンクの整備・充実を図り、地域の教育力を活用します。  
老朽化した学校施設を建て替え、教育環境を整備します。

基本目標  
5

教職員の教育研究の推進と研修の充実  
校内研修充実のための支援

教職員の人権感覚をみがきます。  
教職員の資質向上を図り、専門性を高める研修を充実させます。  
教育課程研究協議会の成果を小中学校へ広めます。  
総括教諭を配置し、教員の人材育成を図ります。  
栄養教諭の育成を推進します。

基本目標  
6

学校と保護者との連携組織(PTA)の活性化  
子ども理解に関する講座の充実

積極的に情報提供を行います。  
食育を家庭と共に推進します。  
子どもの体と心についての講座や教育講演会を充実させ、家庭と共に子ども理解を深めます。  
社会教育関係諸団体と協力して、保護者の学びの場をつくります。

基本目標  
7

地域社会と協働した特色ある学校教育の推進  
子どもを健やかに育てるための地域ネットワークへの参画

大和市の総合計画と連動して子どもを大切にしまちづくりを進めます。  
教育フォーラムを開催し、学校、家庭、地域の交流を図ります。

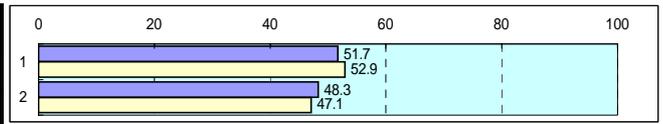
# 資 料

- ・大和の教育に関するアンケート集計結果 ..... 1
  - 対 象：市内小中学校の児童生徒、教員、保護者
  - 小学校5年生（6校 各2クラス抽出）
  - 中学校2年生（3校 各2クラス抽出）
  - 実施日：平成16年12月
  
- ・教育フォーラム ..... 10
  
- ・大和市学校教育基本計画策定委員会設置要綱 ..... 14
  
- ・大和市学校教育基本計画策定委員名簿 ..... 15

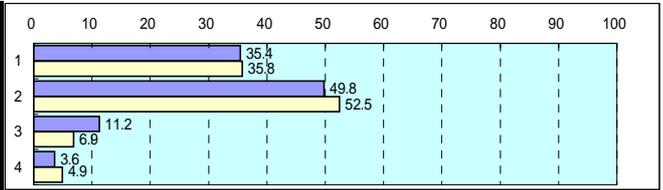
# 大和の教育に関するアンケート集計結果(児童生徒)

小学校  
 中学校  
 入力数622件

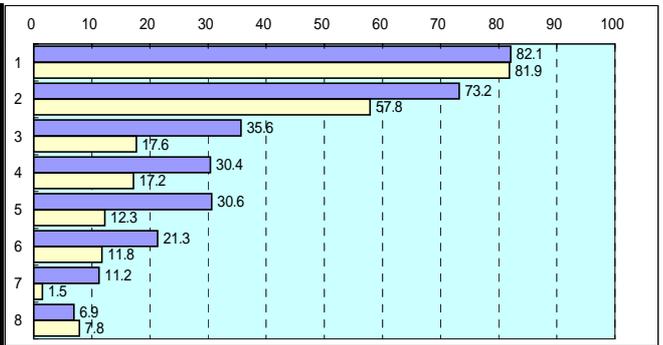
問	あなたの性別を教えてください。	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.男	51.7	52.9
2	2.女	48.3	47.1



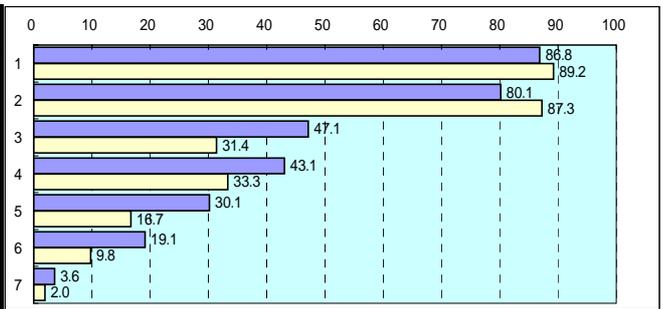
問	あなたは、学校が楽しいですか。(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.とても楽しい	35.4	35.8
2	2.まあまあ楽しい	49.8	52.5
3	3.あまり楽しくない	11.2	6.9
4	4.ぜんぜん楽しくない	3.6	4.9



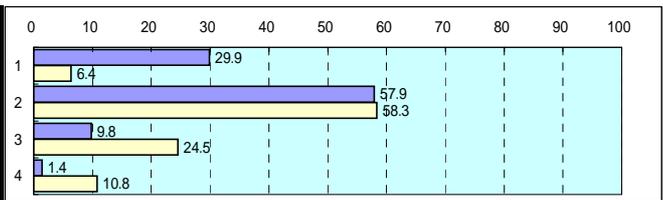
問	あなたが、学校生活の中で楽しいと感じる時はいつですか。(いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.遠足や社会見学などの行事	82.1	81.9
2	2.クラブ・部活動	73.2	57.8
3	3.総合的な学習の時間	35.6	17.6
4	4.学級会・学級活動	30.4	17.2
5	5.教科の勉強	30.6	12.3
6	6.委員会活動	21.3	11.8
7	7.児童会・生徒会活動	11.2	1.5
8	8.あてはまるものがない	6.9	7.8



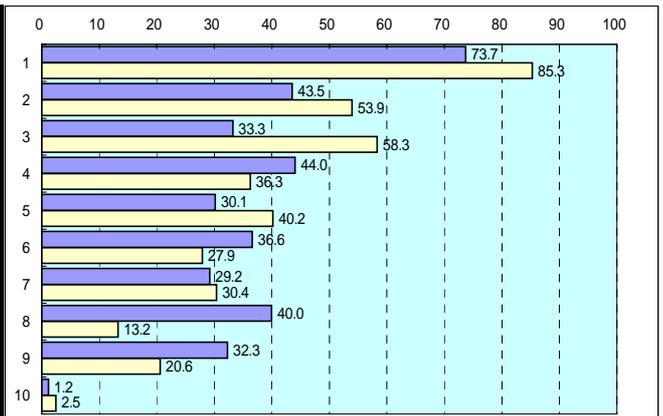
問	あなたが、学校生活の中で好きな時はいつですか。(いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.友だちと遊んでいる時	86.8	89.2
2	2.友だちとおしゃべりの時	80.1	87.3
3	3.勉強がよくわかった時	47.1	31.4
4	4.給食を食べている時	43.1	33.3
5	5.先生とおしゃべりの時	30.1	16.7
6	6.掃除をしている時	19.1	9.8
7	7.あてはまるものがない	3.6	2.0



問	学校の勉強はわかりますか。(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.よくわかる	29.9	6.4
2	2.まあまあわかる	57.9	58.3
3	3.あまりわからない	9.8	24.5
4	4.ぜんぜんわからない	1.4	10.8



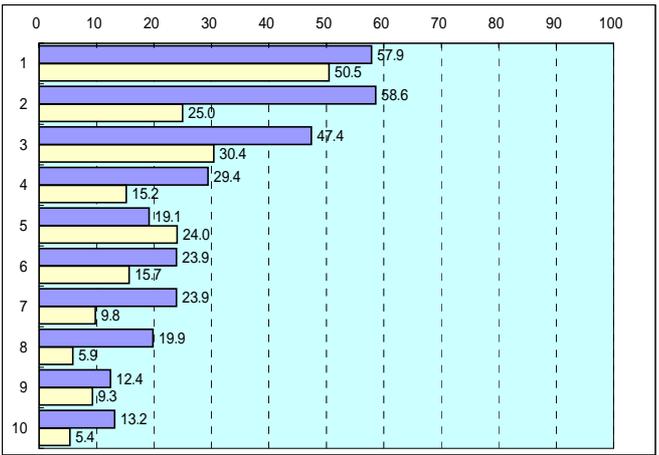
問	授業中のあなたの様子について(いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
1	1.黒板の内容をノートにとっている	73.7	85.3
2	2.先生の話をよく聞いている	43.5	53.9
3	3.教科書の大切なところをしるをつけている	33.3	58.3
4	4.友だちの発言をよく聞いている	44.0	36.3
5	5.ぼんやりと他のことを考えている	30.1	40.2
6	6.教科書にかいてある大切なことを覚える	36.6	27.9
7	7.友だちとおしゃべりしている	29.2	30.4
8	8.手をあげて発言する	40.0	13.2
9	9.ノートに絵をかいている	32.3	20.6
10	10.あてはまるものがない	1.2	2.5



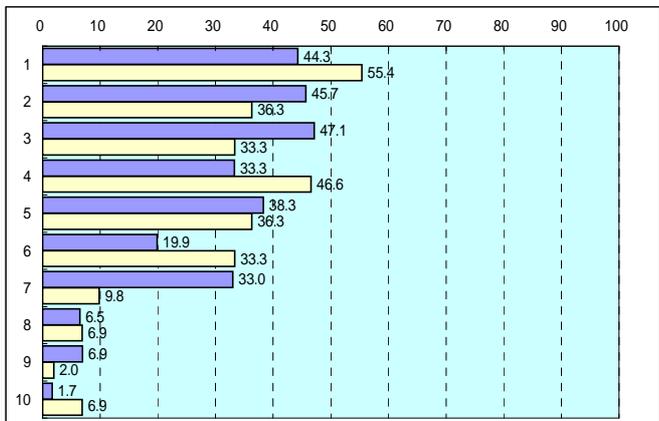
## 大和の教育に関するアンケート集計結果(児童生徒)

小学校  
 中学校

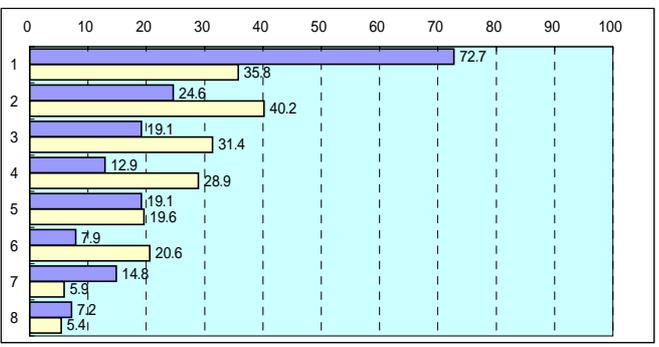
問7	あなたが好きな勉強はなんですか。(いくつでも)	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	パソコンのインターネットを使ってわからないことを調べる	57.9	50.5
2	会社や工場、市場などに見学に行く	58.6	25.0
3	友だちと協力して発表する内容をまとめる	47.4	30.4
4	英語を使った勉強をすること	29.4	15.2
5	先生の話聞く	19.1	24.0
6	自分で課題を決めて学習すること	23.9	15.7
7	テスト勉強をすること	23.9	9.8
8	商店の人などにインタビューや質問をすること	19.9	5.9
9	くりかえして復習すること	12.4	9.3
10	調べたりまとめたりしたことを、大勢の人の前で発表すること	13.2	5.4
11	あてはまるものがない	9.3	20.6



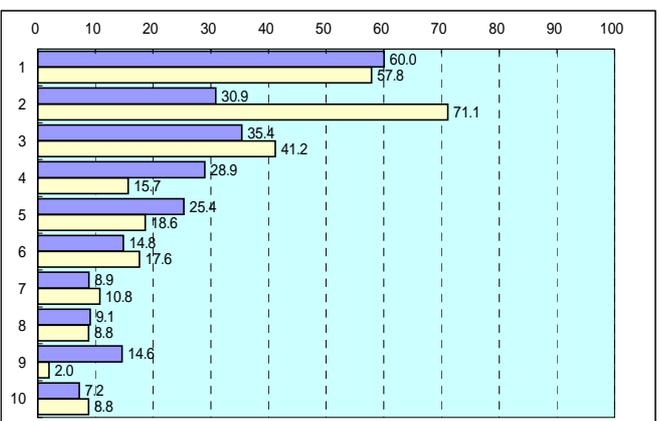
問8	あなたはどんな先生が好きですか。(3つ)	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	勉強をわかるまで教えてくれる	44.3	55.4
2	しかったり、怒ったりしないでわかるように注意してくれる	45.7	36.3
3	あまり宿題を出さない	47.1	33.3
4	いろいろな道具を使って工夫して教えてくれる	33.3	46.6
5	なんでも相談にのってくれる	38.3	36.3
6	授業のはじまりと終わりをしっかりと守る	19.9	33.3
7	一緒に遊んでくれる	33.0	9.8
8	テストをよく行ってくれる	6.5	6.9
9	よく宿題を出してくれる	6.9	2.0
10	あてはまるものがない	1.7	6.9



問9	家ではどんな勉強をしていますか。(2つ)	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	学校の宿題をしている	72.7	35.8
2	塾の宿題をしている	24.6	40.2
3	テストのための勉強	19.1	31.4
4	家ではほとんどしていない	12.9	28.9
5	好きな勉強をしている	19.1	19.6
6	復習をしている	7.9	20.6
7	予習をしている	14.8	5.9
8	テストで間違えた問題をやり直している	7.2	5.4

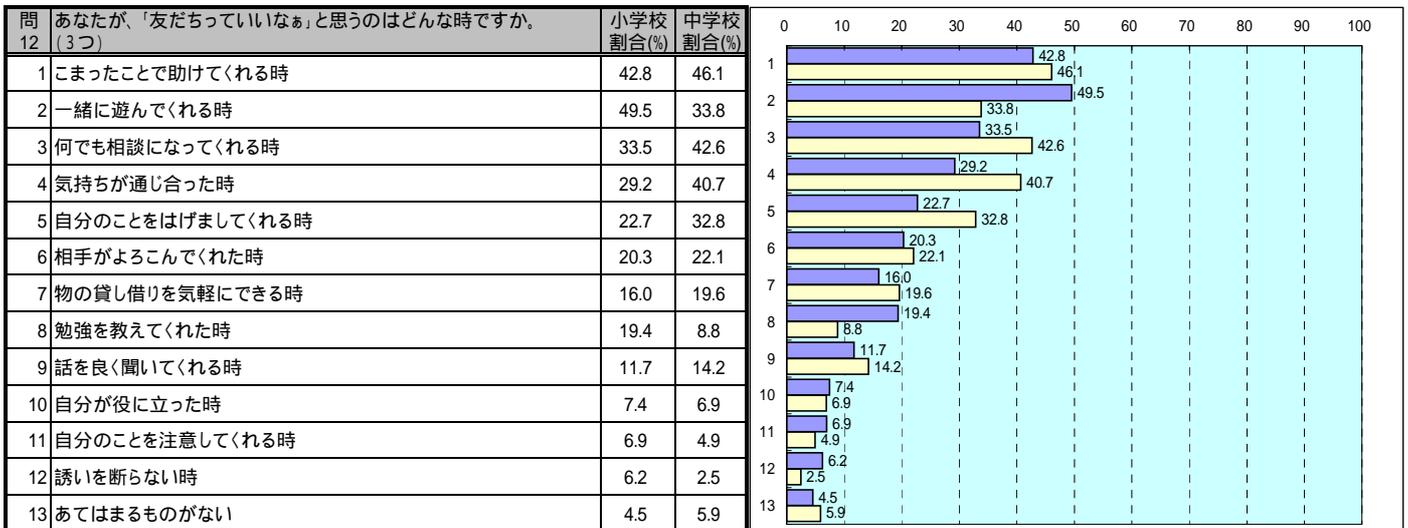
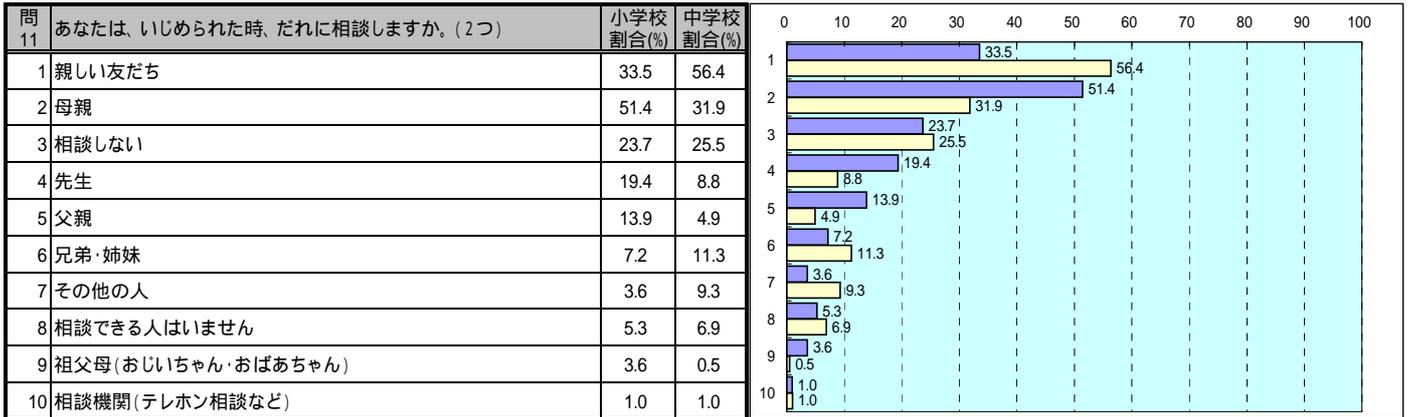


問10	あなたは何のために勉強していますか。(3つ)	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	テストで良い点数をとるとうれいから	60.0	57.8
2	受験に必要だから	30.9	71.1
3	自分がつきたい仕事につくの必要だから	35.4	41.2
4	世の中で役に立つ人になりたいから	28.9	15.7
5	友だちに負けたくないから	25.4	18.6
6	勉強しないと家の人におこられるから	14.8	17.6
7	お金持ちになりたいから	8.9	10.8
8	みんながやっているから	9.1	8.8
9	勉強することが楽しいから	14.6	2.0
10	あてはまるものがない	7.2	8.8



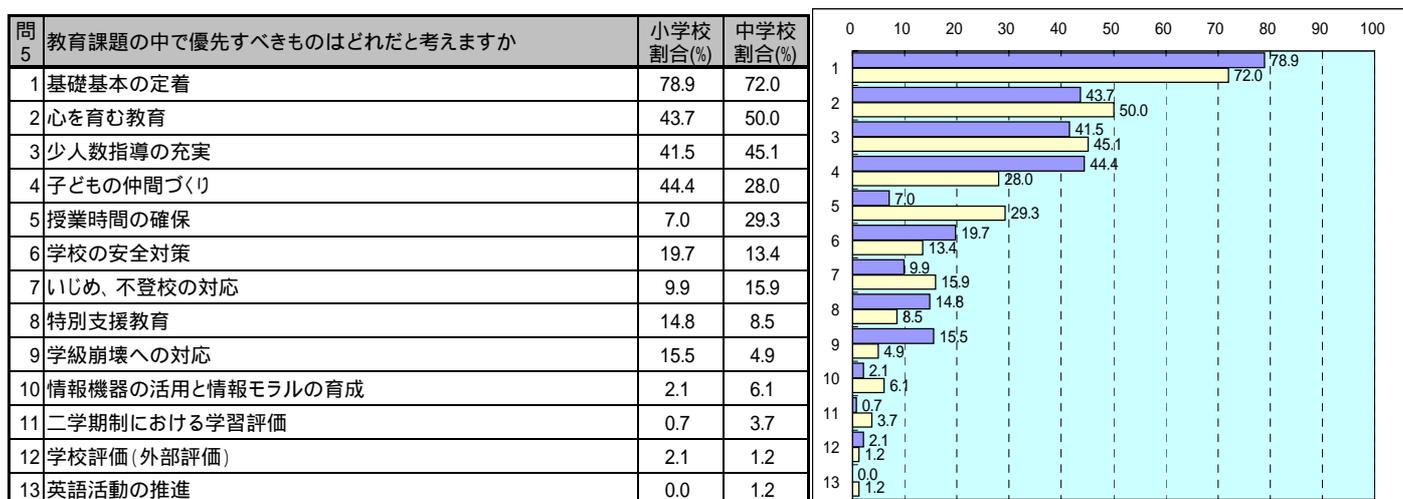
# 大和の教育に関するアンケート集計結果(児童生徒)

小学校  
 中学校



# 大和の教育に関するアンケート集計結果(教員)

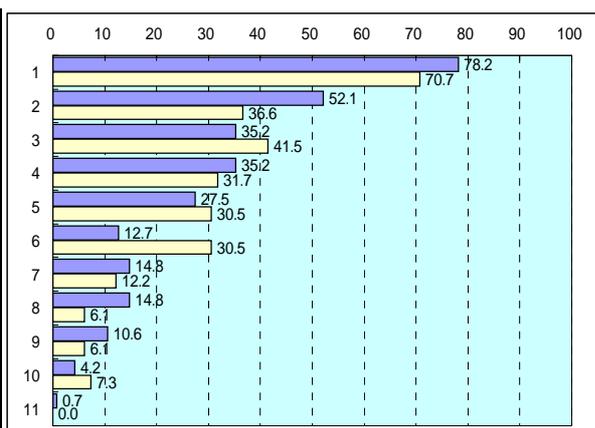
小学校  
 中学校  
 入力数228件



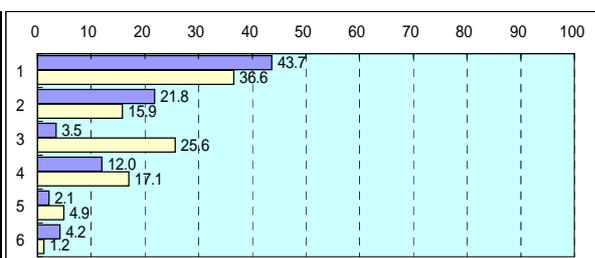
## 大和の教育に関するアンケート集計結果(教員)

小学校  
 中学校

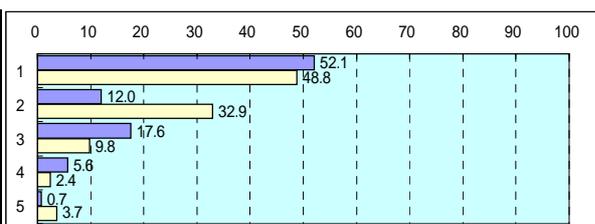
問6	あなたは、どのような教師像をめざしていますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	よくわかる授業づくりをめざす教師	78.2	70.7
2	子どもの気持ちにより添う教師	52.1	36.6
3	指導力のある教師	35.2	41.5
4	温かみのある教師	35.2	31.7
5	子どもたちに平等に接する教師	27.5	30.5
6	専門的知識の豊かな教師	12.7	30.5
7	クラスをまとめる力のある教師	14.8	12.2
8	保護者からの信頼が厚い教師	14.8	6.1
9	子どもに慕われる教師	10.6	6.1
10	地域とのかかわりを大切にす教師	4.2	7.3
11	公私をはっきりさせる教師	0.7	0.0



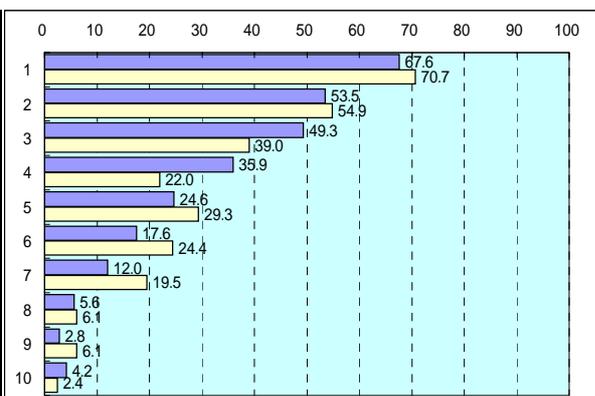
問7	学校教育における中学校の部活動のあり方	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	学校から切り離して、社会体育に移行していく	43.7	36.6
2	ボランティアを入れてもっと活動を盛んにする	21.8	15.9
3	現行のままでいい	3.5	25.6
4	全教職員が協力して担当するようにする	12.0	17.1
5	学校間交流する	2.1	4.9
6	もっと活動を縮小する	4.2	1.2



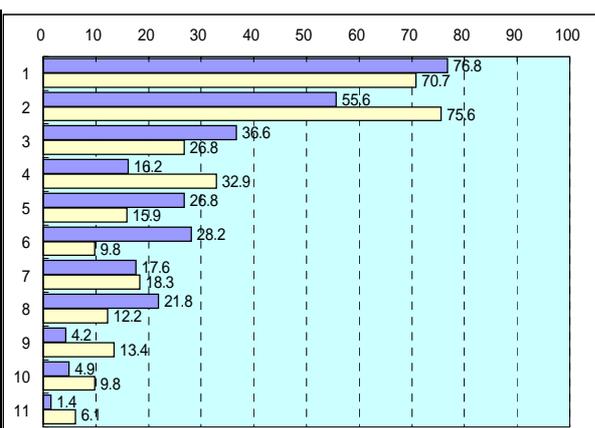
問8	家庭・地域との連携のために特に必要なこと	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	学校からの情報公開・情報提供	52.1	48.8
2	学校と地域・家庭の連携行事を増やす	12.0	32.9
3	PTA活動の充実	17.6	9.8
4	多くの教員が地域の行事に参加する	5.6	2.4
5	学校評議員制度の活用	0.7	3.7



問9	子どもにとって魅力ある教育活動を展開するための工夫	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	授業研究の充実	67.6	70.7
2	関心・意欲を呼び起こす工夫	53.5	54.9
3	教材・教具の開発	49.3	39.0
4	集団における仲間づくりの推進	35.9	22.0
5	少人数指導の拡大	24.6	29.3
6	行事内容の工夫	17.6	24.4
7	学習形態の工夫	12.0	19.5
8	カリキュラム開発	5.6	6.1
9	地域との連携	2.8	6.1
10	日課表の工夫	4.2	2.4



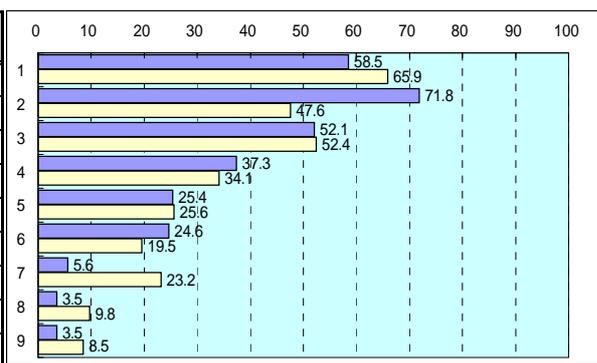
問10	あなたは、家庭や保護者にどのようなしつけを要望しますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	善悪の判断	76.8	70.7
2	あいさつや感謝に対する態度	55.6	75.6
3	言葉遣い	36.6	26.8
4	約束を守る	16.2	32.9
5	わがまを言わない	26.8	15.9
6	友だちと仲良くする	28.2	9.8
7	身のまわりの整理整頓	17.6	18.3
8	早寝早起き	21.8	12.2
9	時間を守る	4.2	13.4
10	家庭学習	4.9	9.8
11	計画を立てて生活する	1.4	6.1



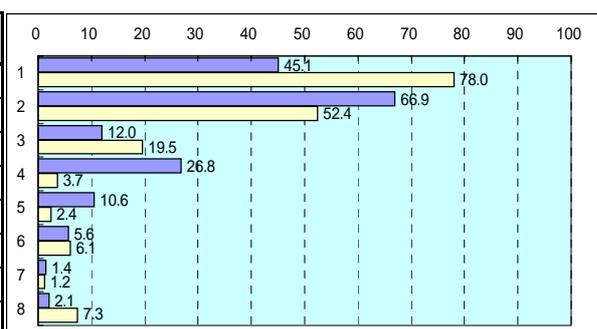
# 大和の教育に関するアンケート集計結果(教員)

小学校  
 中学校

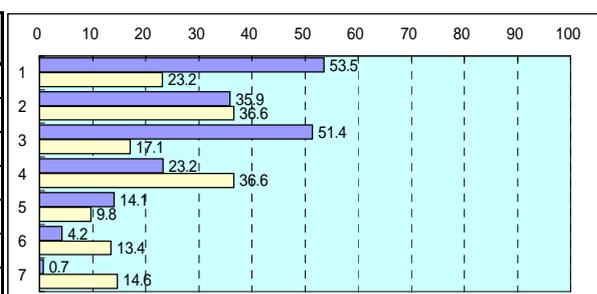
問11	あなたは、家庭や保護者にどのような協力を望みますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	家庭での会話を増やしてほしい	58.5	65.9
2	子どもの小さな頑張りでも認めてあげてほしい	71.8	47.6
3	朝食を食べさせてから登校させてほしい	52.1	52.4
4	友だちに迷惑をかけないようにさせてほしい	37.3	34.1
5	授業参観や懇談会に参加してほしい	25.4	25.6
6	忘れ物をさせないようにしてほしい	24.6	19.5
7	遅刻をしないようにさせてほしい	5.6	23.2
8	地域の教育力として学習活動に力を貸してほしい	3.5	9.8
9	PTA活動に参加してほしい	3.5	8.5



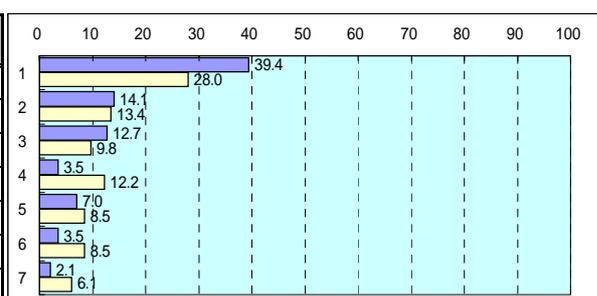
問12	学力低下論が話題になっていますが、どのように考えますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	低下していると思う	45.1	78.0
2	生きる力と基礎基本のバランスが大切だと考える	66.9	52.4
3	以前のように教える知識の量を増やすべきと考える	12.0	19.5
4	今の学力観と数年前の学力観は違うので比較できない	26.8	3.7
5	生きる力をつける方が大切だと考える	10.6	2.4
6	授業時間数や教える内容が減っているので問題とは思わない	5.6	6.1
7	学力はむしろ上がっていると感じる	1.4	1.2
8	あてはまるものがない	2.1	7.3



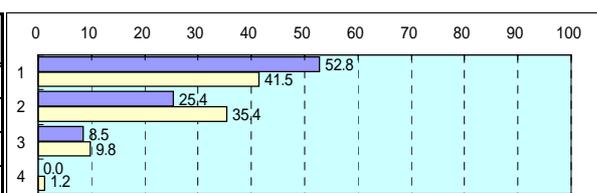
問13	学校生活で、10年前と比べて次のように感じることはありますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	授業中に私語をする子が増えた	53.5	23.2
2	そうじをきちんとしなくなった	35.9	36.6
3	あいさつのできない子が増えた	51.4	17.1
4	忘れ物をする子が増えた	23.2	36.6
5	遅刻が多くなった	14.1	9.8
6	素直に協力する子が増えた	4.2	13.4
7	係や委員会活動にきちんと参加する子が増えた	0.7	14.6



問14	10年前と比べて次のように感じることはありますか	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	いろいろな知識をもった子が増えた	39.4	28.0
2	調査・研究活動への取り組みが活発になった	14.1	13.4
3	発表する力が上がった	12.7	9.8
4	ノートを積極的にとる子が増えた	3.5	12.2
5	学習意欲が感じられる子が増えた	7.0	8.5
6	授業中に発言や質問をする子が増えた	3.5	8.5
7	おしゃべりする子どもが減った	2.1	6.1

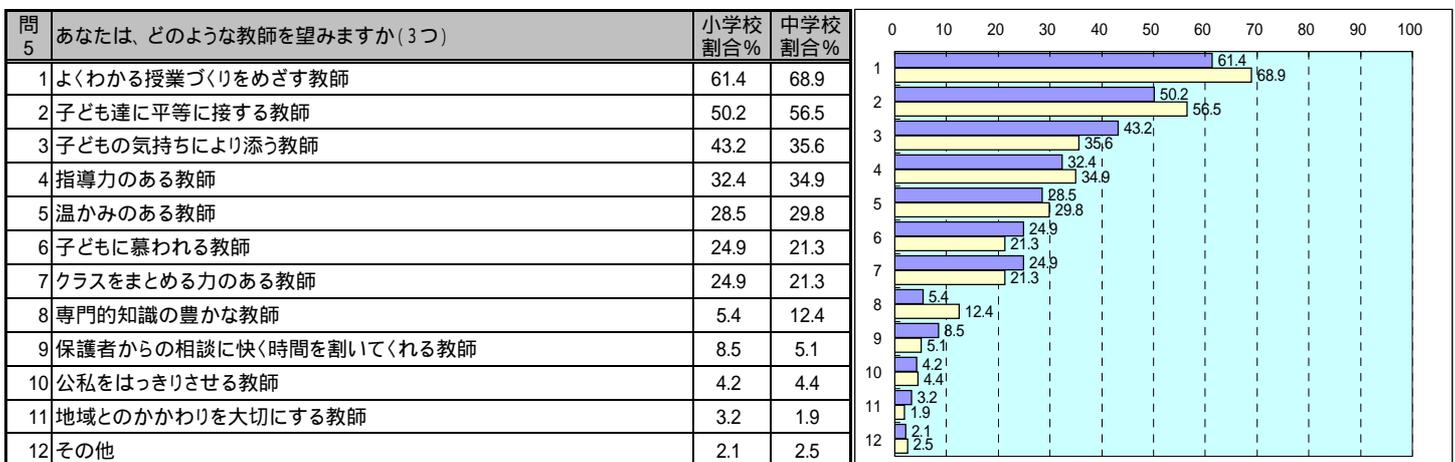
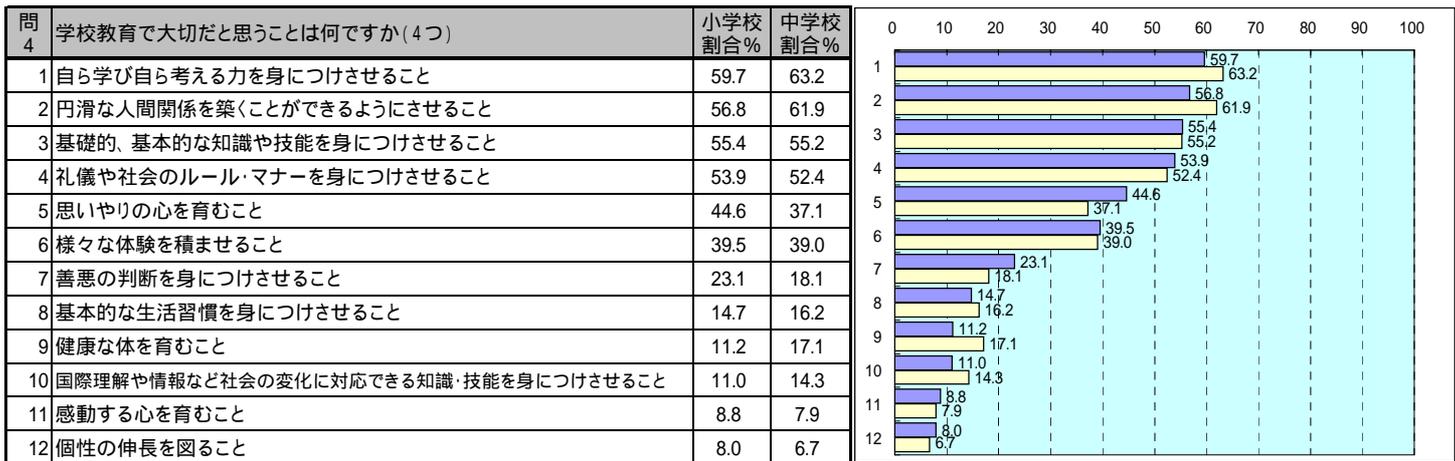


問15	10年前と比べての基本的な生活習慣	小学校割合(%)	中学校割合(%)
1	かなりある	52.8	41.5
2	少しある	25.4	35.4
3	ほとんどない	8.5	9.8
4	むしろしっかりしていると感じる	0.0	1.2



# 大和の教育に関するアンケート集計結果(保護者)

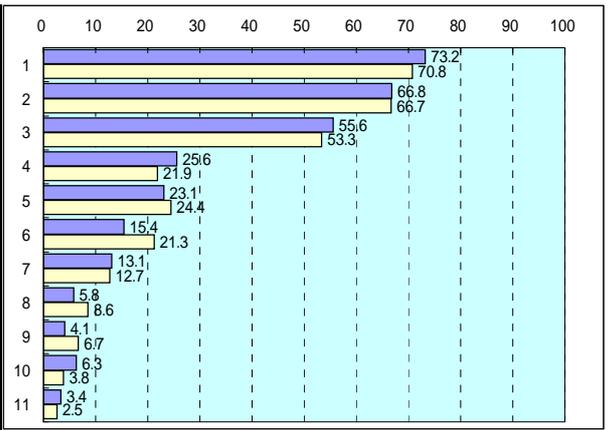
小学校  
 中学校  
 入力数 908件



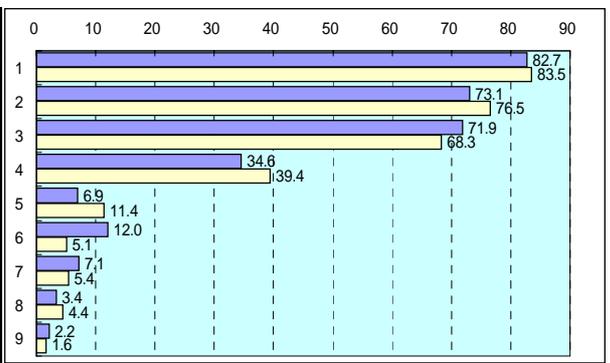
# 大和の教育に関するアンケート集計結果(保護者)

小学校  
 中学校

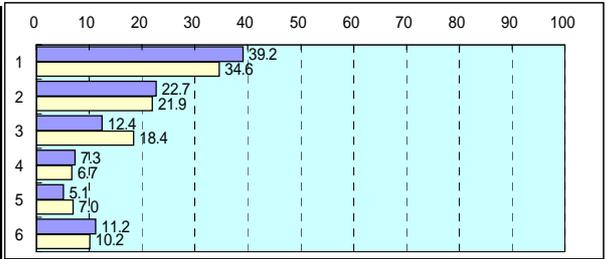
問6	家庭でのしつけで大切にしているものは何ですか(3つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	あいさつや感謝に対する態度	73.2	70.8
2	善悪の判断	66.8	66.7
3	約束を守る	55.6	53.3
4	友だちと仲良くする	25.6	21.9
5	言葉遣い	23.1	24.4
6	時間を守る	15.4	21.3
7	身のまわりの整理整頓	13.1	12.7
8	計画を立てて生活する	5.8	8.6
9	家庭学習	4.1	6.7
10	早寝早起き	6.3	3.8
11	わがままを言わない	3.4	2.5



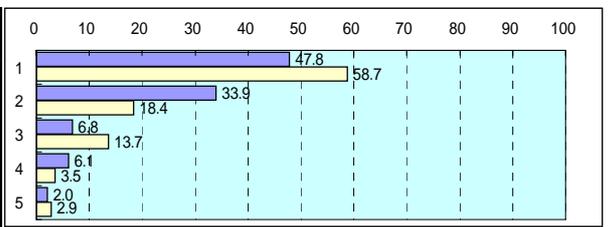
問7	子どもを育てる上で家庭教育として大切だと思うこと(3つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	人を思いやる心を育てること	82.7	83.5
2	善悪の判断を身につけさせること	73.1	76.5
3	あいさつや社会のルールを教えること	71.9	68.3
4	しつけをすること	34.6	39.4
5	知識を身につけさせること	6.9	11.4
6	自然体験をさせること	12.0	5.1
7	情操教育を行うこと	7.1	5.4
8	学力をつけさせること	3.4	4.4
9	ボランティア体験をさせること	2.2	1.6



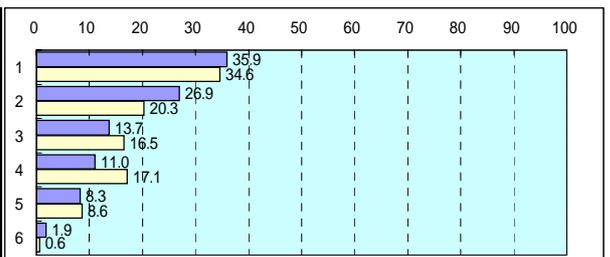
問8	PTA活動に参加協力した時、どのような思いで参加されますか(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	みんなと協力することは大切だから	39.2	34.6
2	自分自身の良い経験だから	22.7	21.9
3	より多くの人と出会えるから	12.4	18.4
4	新しい経験ができるから	7.3	6.7
5	さそわれてなんとなく参加	5.1	7.0
6	その他	11.2	10.2



問9	学校・家庭・地域との連携のために特に必要なこと(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	学校からの情報公開・情報提供	47.8	58.7
2	学校と地域・家庭の連携行事を増やす	33.9	18.4
3	PTA活動の充実	6.8	13.7
4	多くの教員が地域の行事に参加する	6.1	3.5
5	学校評議員制度の活用	2.0	2.9



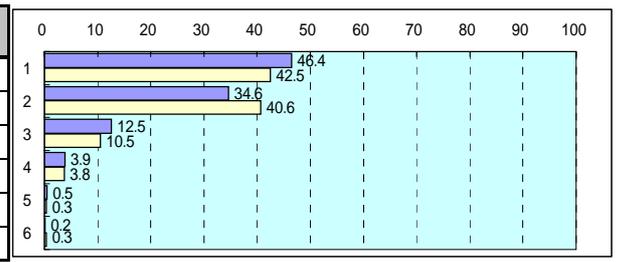
問10	地域の活動として今後特に取り組まなければならないことは何だと思えますか(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	困った時に助け合える関係づくりの取り組み	35.9	34.6
2	地域の安全を守る取り組み	26.9	20.3
3	社会的ルールを身につけさせる取り組み	13.7	16.5
4	奉仕活動やボランティア活動の取り組み	11.0	17.1
5	自然体験・生活体験を豊かにする取り組み	8.3	8.6
6	その他	1.9	0.6



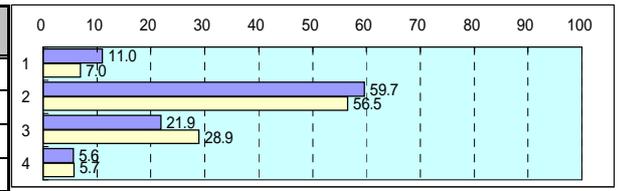
## 大和の教育に関するアンケート集計結果(保護者)

小学校  
 中学校

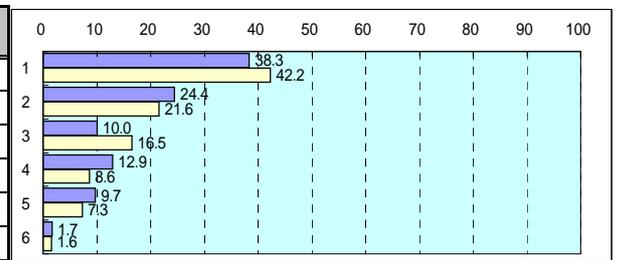
問11	あなたは、学校の教育活動への協力についてどうお考えですか(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	協力のお願があれば、できるだけのことをしたい	46.4	42.5
2	協力のお願があれば、内容によっては協力したい	34.6	40.6
3	自分から進んで協力する姿勢を持ちたい	12.5	10.5
4	協力のお願があっても、あまり協力できない	3.9	3.8
5	関心がない	0.5	0.3
6	協力のお願があっても、協力しない	0.2	0.3



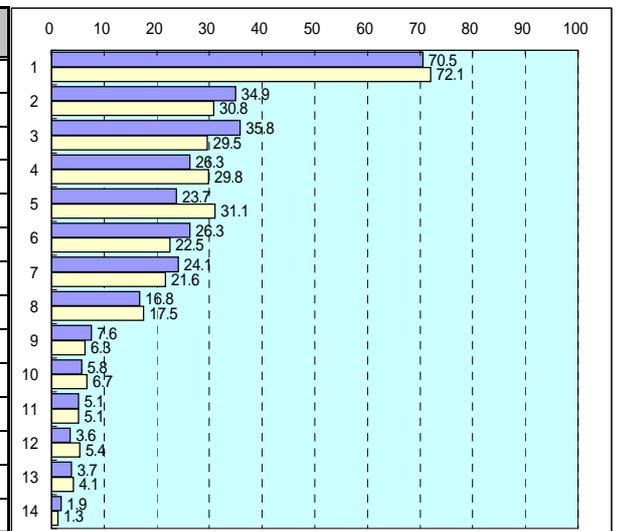
問12	学校から家庭への連絡や情報提供はされていると思いますか(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	十分していると思う	11.0	7.0
2	十分とはいえないが一応していると思う	59.7	56.5
3	不十分であると思う	21.9	28.9
4	わからない	5.6	5.7



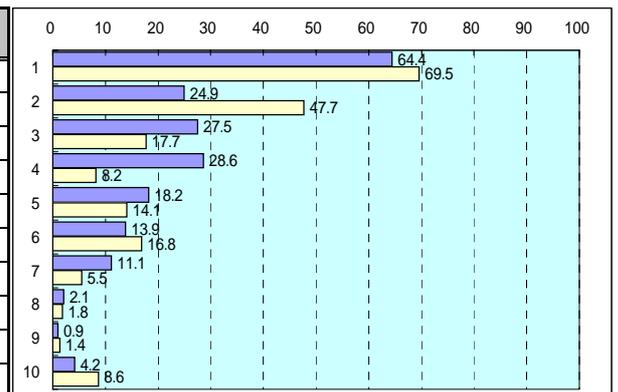
問13	地域の子どもの教育について協力できることはどんなことでしょうか(1つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	子どもとあいさつをかわす	38.3	42.2
2	子どもの良い行いを見かけたらほめて、悪いおこないを見かけたら注意する	24.4	21.6
3	何かあったら、家庭や学校に連絡する	10.0	16.5
4	自分から地域の行事に積極的に参加する	12.9	8.6
5	地域の子どもの対象とした行事やボランティア活動を進んで実施する	9.7	7.3
6	その他	1.7	1.6



問14	今の小中学生に特に身につけてほしいと思うことは何ですか。(3つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	思いやり・協調性	70.5	72.1
2	責任感	34.9	30.8
3	忍耐強さ	35.8	29.5
4	基本的な生活習慣	26.3	29.8
5	意欲	23.7	31.1
6	生命尊重・自然愛護	26.3	22.5
7	自主・自立性	24.1	21.6
8	公共心・公德心	16.8	17.5
9	探究心	7.6	6.3
10	体力	5.8	6.7
11	公正・公平さ	5.1	5.1
12	ボランティアの精神	3.6	5.4
13	豊富な知識・高い学力	3.7	4.1
14	その他	1.9	1.3



問15	お子さんに習い事をさせている理由は何ですか(2つ)	小学校割合%	中学校割合%
1	自分の子どもの可能性や能力を伸ばしてあげたいから	64.4	69.5
2	学校の教育だけでは不十分だから	24.9	47.7
3	学校とは別の場において、新たな体験活動が期待できるから	27.5	17.7
4	スポーツや体力の向上を期待するから	28.6	8.2
5	学校とは別の場において、新たなふれあいが期待されるから	18.2	14.1
6	特に考えていないが、子どもが習いたいと言ったから	13.9	16.8
7	情操教育になるから	11.1	5.5
8	放課後の子どもの居場所として安全や保護が期待できるから	2.1	1.8
9	ほとんどの子どもが習い事をしているようだから	0.9	1.4
10	その他	4.2	8.6



## 教育フォーラム

学校教育基本計画の策定に向けて、市民のみなさんにそれぞれの立場で、教育に対する意見を出していただくことを目的として、行いました。

### 第 1 回

テーマ：「育もう 子どもたちの夢」

形態：基調提案、パネルディスカッション、小中学生の意見発表、意見交換

コーディネーター：高橋 勝（横浜国立大学教授）

パネリスト：岡松 弘純（みどりのフレンドパーク実行委員会委員）

前島 眞奈美（渋谷中学校PTA）

岡部 昭次（学校評議員）

関 洋平（横浜国立大学4年）

矢嶋 博子（中央林間小学校教諭）

参加者：約400人

内容：

#### 1 基調提案要旨

社会の変化を受け、子どもたち自身も変容していくなかで、これからの子どもたちには、基礎学力を定着させ、子ども自らが学び自己決定できる力を育て、夢に向かって挑戦していく「人間力」と「市民力」を育てていきたい。また、学校は、保護者・地域・子ども・教師が共に創っていくものでありたい。学校教育基本計画を策定することにより、「子どもが自発的に学び、夢と自信をふくらませる学校教育」「さまざまな他者と共に学び合い、共生の技法が自然に身につく学校教育」等、今後の大和市の学校教育の方向性が示されることを期待する。

#### 2 主な意見

##### 子どもたちにどのように育てほしいか

- ・今の子どもたちは、集団のなかで自己決定することが苦手のように見える。自分の考えや気持ちをはっきり表現できる子どもに育てほしい。
- ・いろいろな経験をさせ、何か夢を見つけられるとよいと思う。
- ・子どもに「みんなに助けられている。1人ではないんだ。」ということを教えたい。

##### 子どもたちの夢を育むための学校・地域・家庭の役割について

- ・子どもたち一人ひとりの思いを受けとめ、地域・家庭と共に子どもたちの健やかに育つ芽を大切に育てていきたい。
- ・子どもたちが大きな夢を育むためには、夢に向かって努力する大人の存在が欠かせない。
- ・子どもたちとかがわるなかで、大人も変容していきながら、活動していきたい。
- ・PTAが学校と協力して、地域の行事や安全を守る活動をしていく。
- ・学校は、失敗を許される場所、先生はゆったりと子どもに接してほしい。

- ・ほめて、よいところを伸ばして行ってほしい。
- ・夢や志をもって生きている人の生き方に子どもたちをふれさせ、出会えることが大切だと思った。
- ・子どもたちに心の安心感、信頼感を感じてもらえるような学校づくりに期待している。
- ・学力向上に力を入れてほしい。
- ・学校、PTA、地域のつながりがしっかりとできていれば、子どもたちも安心していろいろなことにチャレンジしたり、助けを求めたりすることができるのではないかと思った。

#### その他

- ・このフォーラムが、教育について、いろいろな立場の方の意見を聞き、みんなが考える機会となってよかった。
- ・子どもから尊敬される大人になりたい。
- ・立場を変えたパネリストの発言は内容が充実していて有意義だった。
- ・先生、親はゆとりが大切。
- ・アシスタントティーチャーをぜひ取り入れてほしい。



## 第 2 回

テーマ：「子どもの夢を育む学校、家庭、地域、行政のパートナーシップ」

形態：グループ討議（19グループ）

参加者：約150人

内容：

- 1 これからの社会を生きていく子どもたちには、どのような力や態度を身につけさせることが必要か。（主な意見から）

自分をみがいたり高めたりする力として	人とかがわり合っていく力として
自分で考え、行動する力 正しい生活習慣を身につけること 基礎的な学力 国際的な感覚 夢をもつ、目標をもつこと 自己肯定感 自分の気持ちや考えをはっきり言えること 判断力 想像力 柔軟性 チャレンジ精神 困難に立ち向かう力 自立心 美意識 適応力 職業意識	コミュニケーション能力 思いやり あいさつ 社会性、基本的なルールを身につけること 感謝 平和を愛する気持ち 人間関係の調整力 話を聞く 互いの個性を認めること 連帯感 人権を尊重すること 信頼関係・安心

- 2 そのために、学校、家庭、地域社会、行政で、何をすることが必要か。

グループ	必要なこと	理由
1	地域でいろいろな経験をさせる。コミュニケーションがもてるようにする。	自分を好きだと思える子どもにするため。
2	学校・家庭・地域が日常的に連携できる行事・しくみをつくる。	子どもたちのコミュニケーション能力を高めるためには、それぞれが子どもたちのために行っていることの連携を図ることが大切だから。
3	礼儀を教える。人を敬う。感謝する。	人は多くの人に支えられて生きており、人が協調して生きていくためには、礼儀と感謝の心が第一だから。
4	地域における大人社会再構築の場づくり	子どもの人間関係を豊かにつながり深いものにするためには、大人の間人間関係が豊かでつながり深いものでなければならぬが、現在それが十分とはいえない。そこで、行政が積極的に支援して、大人の間社会を再構築するなど大人の再教育の場を設けることが必要だから。

5	地域行事への積極的な参加	つながりのある教育、家庭と学校と地域の連携が大切だから。
6	安心して暮らせる地域社会	コミュニケーションする力を育てたいから。
7	人的・物的環境の整備・予算化	大和の子どもたちに目標意識、達成感をもってほしいから。
8	自然体験・社会体験ができる行事、子どもたちが安全に遊べる自然空間	人・自然とふれあって、よりよく豊かに生きてほしいから。
9	意識啓発のための情報発信	課題とそれぞれの責任の共有化、具体的な行動連携のアピールが必要だから。
10	多様な人とのかかわりのなかで人間関係を学び、自己を見つめさせる。	育てたい力の核になるのは全て「人間関係」であると考えするため。
11	コミュニケーション・信頼関係	それぞれの立場で「育てる」を考えることが必要であるから。
12	子どもが夢をもてるキャリア教育の推進	大和の市民として心の根っこを育てることで、地域社会に貢献する人に育てたいから。
13	子どもたちが楽しいと思える学校づくり	集団の力や人々とのかかわりの力を育て、人生に夢や楽しみをもってほしいから。
14	子どもを理解する。	子どもを理解することは、コミュニケーション・思いやり・判断力が高まる。
15	人とのふれあい、温かなつながりをつくる継続的な取り組み	自分が見守られているという実感をもつことによって、これからの社会をがんばって生きる力を育めるから。
16	子どもたちを含めて発言できる場所が必要である。	レッツ コミュニケーション 子ども参画社会の実現を目指して～スキップ・地域連携を大切にして～例えばこのようなテーマで、子ども中心の社会・子どもの意見を聞く社会を築いていくことが必要だから。
17	自信	自信がもてる子に育てることは全てにつながっているから。家庭は愛情、学校は学力、地域社会は社会性、行政はネットワークづくり。
18	先生の質の向上。プロ意識をもつ。少人数学級を増やす。集団で身につけさせたい。先生は自信・信念をもってほしい。勉強は学校が基本。余裕。きちんとした教育。	大和市にとって何が必要か、教育現場を見てほしいから。
19	親が見本・手本になる。	基本的な生活習慣ができていない。親自身が手本・見本となって子どもに示すことが大切であるから。

## 大和市学校教育基本計画策定委員会設置要綱

### (趣旨)

第1条 この要綱は、大和市学校教育基本計画策定委員会の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (設置)

第2条 大和市学校教育基本計画を策定するため、大和市学校教育基本計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第3条 策定委員会は、大和市学校教育基本計画の原案を策定し、その結果を教育長に報告するものとする。

### (組織)

第4条 策定委員会は、委員長及び委員をもって組織する。

(1) 委員長は、委員の互選によりこれを定める。

(2) 委員は、次に掲げる者で構成する。

- ・学識経験者
- ・校長会代表者
- ・教頭会代表者
- ・教職員代表者
- ・学校評議員
- ・幼稚園代表者
- ・PTA代表者
- ・保育園代表者
- ・自治連代表者
- ・社会教育委員代表者
- ・家庭・地域教育活性化会議代表者
- ・教育行政職員

### (会議)

第5条 策定委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集する。

### (意見の聴取)

第6条 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

### (事務局)

第7条 策定委員会の事務局を教育研究所に置き、庶務事項を処理するものとする。

### (解散)

第8条 策定委員会は、その目的を達成したときに解散するものとする。

### (その他必要事項)

第9条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が策定委員会に諮って定める。

## 附 則

この要綱は、平成17年 4月 1日から施行する。

大和市学校教育基本計画策定委員名簿

は委員長      は副委員長

区 分	氏 名	所属・職名
小学校長会代表者（小学校）	佐藤 敬海	福田小学校校長
中学校長会代表者（中学校）	手塚 文雄	鶴間中学校校長
教頭会代表者（小学校）	田貝 肇	緑野小学校教頭
教頭会代表者（中学校）	岩下 正文	引地台中学校教頭
教職員代表者（小学校）	井上 和美	草柳小学校教諭
教職員代表者（中学校）	広瀬 敏雄	上和田中学校教諭
学校評議員	高橋 敬子	福田小学校評議員
幼稚園代表者	山口 繁美	つるま幼稚園園長
P T A代表者	渡邊 真紀子	下福田中学校P T A
保育園代表者	志村 小夜子	草柳保育園園長
自治会連絡協議会代表者	小林 勝	自治会連絡協議会会長
社会教育委員代表者・学識経験者	高橋 勝	社会教育委員会議議長・横浜国立大学教授
家庭・地域教育活性化会議代表者	鈴木 勝雄	家庭・地域教育活性化会議推進委員会副委員長
教育委員会	箱崎 香代子	教育総務部長
教育委員会	加藤 静雄	総務課長
教育委員会	小川 輝夫	学校教育課長
教育委員会	丸田 昭文	指導室長

アドバイザー	高橋 勝	横浜国立大学教授
--------	------	----------

事務局	伊藤 恵子	教育研究所所長
事務局	伊澤 かつ枝	教育研究所主任指導主事
事務局	堀田 典子	教育研究所指導主事
事務局	落合 直美	教育研究所主事

## 未来へのまなざし 大和市学校教育基本計画

---

発 行 平成18年3月  
発 行 者 大和市教育委員会  
〒242-8601 大和市下鶴間 1-1-1  
電話 046-260-5213 (教育研究所)

---



### タイトル「未来へのまなざし」について

本計画の表題を「未来へのまなざし」としました。

まなざしとは、未来を担い、今を生きる本市の子どもたちに向けられた優しく温かいまなざしと、子どもたちのありのままを正視する深いまなざしを意味しています。それは、学校はもちろん、家庭や地域社会の人々みんなの「子どもが健やかに育つまち」をつくるという強い意志を秘めたまなざしです。

このような子どもたちに向けられたまなざしと並んで大切なのは、未来に向かってしなやかにたくましく生きていこうとする子ども自身のまなざしです。

現代は未来を予測しにくい時代といえます。だからこそ学校は、未来につながる今をしっかり見据え、いかなる変化にもしなやかに対応できる力と自ら成長する力を身につけた子どもたちを未来に送り届ける必要があるでしょう。いつも「未来へのまなざし」をもって。